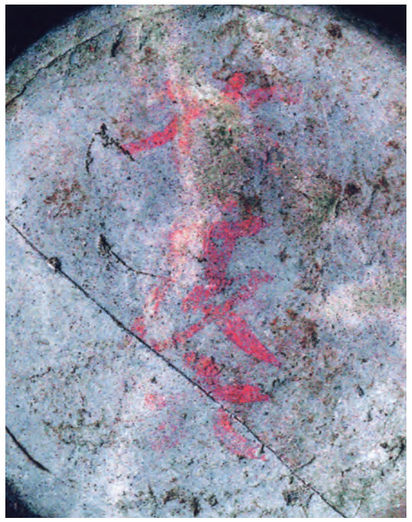


平成13年度(2001年度)

日田市埋蔵文化財年報

平成13年度 日田市埋蔵文化財年報 日田市教育委員会

2002　日田市教育委員会

発　刊　に　あ　た　っ　て

平成 13 年度の埋蔵文化財調査は市内各所で行われ、縄文時代から中世にわたる遺跡が発見されました。

中でも穴観音古墳の確認調査では、これまで確認されていなかった周溝の存在が明らかになり、規模は径 25 ｍになることが判明しました。今後、この成果をもとに穴観音古墳の史跡地の追加指定を行っていくことにしております。

また、前年度まで増加の一途をたどってきました各種開発事業に伴う発掘調査は、今年度は７件と減少しました。しかし、今後も増減を繰り返しながらも開発事業は続くことが考えられ、開発者に対して埋蔵文化財への理解を一層求め、遺跡の現地説明会や展示会などで広く普及・啓発を行っていきたいと考えております。

最後に、この１年間日田市の埋蔵文化財の調査および普及・啓発に並々ならぬご協力・ご指導を賜りました関係者の皆様方に心よりお礼申しあげます。

平成 14 年 12 月

日田市教育委員会

教育長　後　藤　元　晴

例　言

１．本書は平成 13 年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。

２．発掘調査における遺物･図面･写真類等の資料については日田市埋蔵文化財センターで保管･展示している。

３．受領図書は平成 13 年４月１日から平成 14 年３月 31 日までの間に日田市教育委員会に寄贈された書物を掲載し、合わせて日田市立博物館あての書物も掲載した。

４．表紙の写真は大肥条里吉竹地区の空中写真、裏表紙は同遺跡出土の朱墨土器の写真を使用した。

５．本書に掲載した図面の作成・製図は各担当者が行い、受領図書一覧表の作成では伊藤一美氏の協力を得た。

６．本書の執筆は 。Ⅰ－１)、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを若杉が行ったほかは、各担当者が行った。

７．編集は各担当者間で協議し、若杉が行った。

目　次

発刊にあたって

Ⅰ　平成 13 年度埋蔵文化財調査事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

　1）平成 13 年度の埋蔵文化財調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

　2）発掘調査・確認調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

　3）試掘調査・立会調査・照会の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

Ⅱ　埋蔵文化財センター移転事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

Ⅲ　平成 13 年度の埋蔵文化財普及・啓発事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

　1）大肥条里吉竹地区体験発掘 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

　2）穴観音古墳現地説明会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

　3）平成 13 年度の刊行物一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

Ⅳ　平成 13 年度埋蔵文化財センター受領図書一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

Ⅰ　平成１３年度の埋蔵文化財調査事業

１）平成１３年度埋蔵文化財調査の概要

平成１３年度の発掘調査等の動向（表１）

平成13年度は公共･民間開発に伴う埋蔵文化財包蔵地の事前照会件数は次年度試掘調査予定分を含めて30件に上り、試掘･立会調査件数は26件、試掘調査により発掘調査に至ったものを含めた発掘調査は８件であった。

発掘調査は民間開発に伴うものが、前年度継続分を含めて３件と前年度より６件減となった。事業内容としては宅地造成、畑地開墾、畑地造成がそれぞれ１件ずつである。公共事業に伴う発掘調査は農業基盤整備事業に伴う大肥条里吉竹地区、葛原遺跡の２件、市道建設に伴う高瀬条里深野田地区、今泉遺跡の２件を実施した。その他、範囲内容確認を目的として穴観音古墳の確認調査を実施した。

全体として、発掘調査件数は前年度より減少しているものの、大規模な農業基盤整備事業に伴う調査により調査面積の減少率は小さい。また、今後数年間にわたり同様の事業が計画されていることもあり、調査体制の整備が課題となろう。

平成１３年度の発掘調査の内容（表２、第１図）

本年度も旧石器時代の調査例はなかった。縄文時代の調査としては大肥条里吉竹地区が挙げられる。後期の船元系の土器が出土しており、豊前と筑後を結ぶ交通の要所としての当遺跡の特質が指摘できる成果といえよう。また、高瀬条里深野田地区では土坑から後期の磨消縄文土器が出土している。この土坑の中央には小さいピットも検出されており、狩猟の場としての性格もあったものと考えられる。

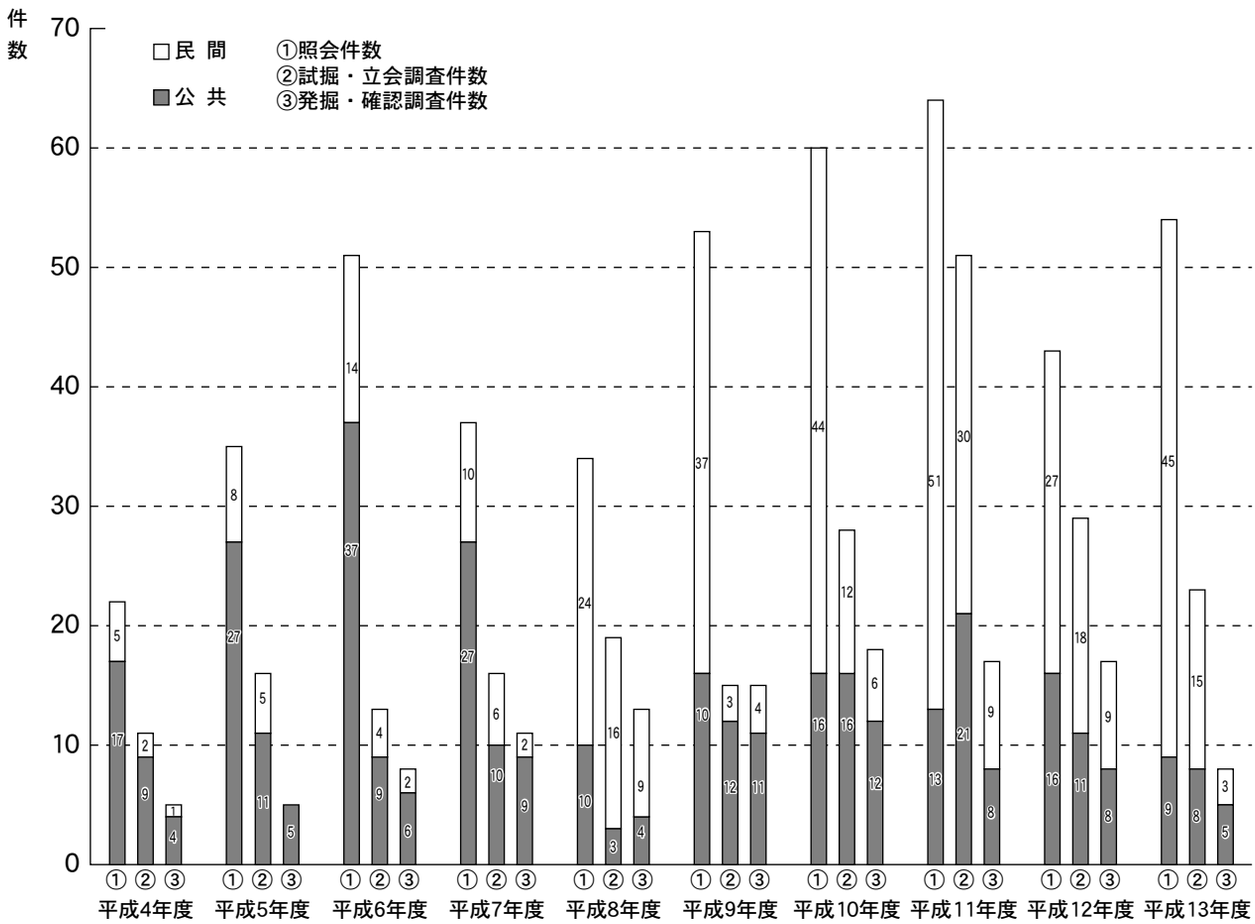
弥生時代の調査では、本村遺跡３次で弥生時代後期後半の集落が確認され、住居内より仿製鏡片（破鏡）が出土している。遺跡北側にある草場第二遺跡の墓地との関係を含め、台地裾部に展開する集落の様相が明らかになりつつある。また、今泉遺跡では後期前半から中頃の竪穴住居跡が確認され、吹上遺跡の集落が営まれた時期と合致する。吹上遺跡周辺では台地以外の箇所での集落の調査例はないことから、当該期の沖積地利用を考える上では重要な調査例となろう。朝日宮ノ原遺跡Ｅ区では中期後半から末にかけての甕棺墓が調査され、また甕棺墓周辺からは木棺墓や土坑墓も検出された。当遺跡が所在する台地の北側では弥生時代終末から古墳時代前期の墓地群も調査されており、台地全体が墓地として時期を変えながらも広く利用されている状況が窺える。

古墳時代遺跡の調査では、本村遺跡３次で後期の集落が確認された。また、大肥条里吉竹地区では、後期の中頃から古代にかけての集落が調査されている。このほか葛原遺跡でも後期の竪穴住居跡が確認され、遺跡周辺も含めて台地一帯に集落が展開していることが窺える。高瀬条里深野田地区では土坑が確認されている。また今泉遺跡では竪穴住居跡が調査されており、遺跡背後の台地崖面に展開する北友田横穴墓群の被葬者の集落とみることもでき、横穴墓と集落が近接する日田盆地での傾向と合致している状況が指摘できる。穴観音古墳の調査では現存している墳丘の周囲にトレンチを設定した結果、周溝と墳丘盛土の一部が確認され、周溝を含めた墳丘規模は径約25ｍになることが判明した。

古代の遺跡の調査では本村遺跡３次、大肥条里吉竹地区で古墳時代から継続する集落が確認されている。特に大肥条里吉竹地区では８世紀代まで集落が継続し、それらを囲む溝の存在が確認され、この地域における中心的な集落であったことが想定できる。さらにこの時期の竪穴遺構からは、「□□六」や「□□四」と朱墨で書かれた土器も出土していることから官衙的な様相をもった集落であった可能性も考えられる。

中世の遺跡の調査では、本村遺跡３次･４次で掘立柱建物が確認されている。

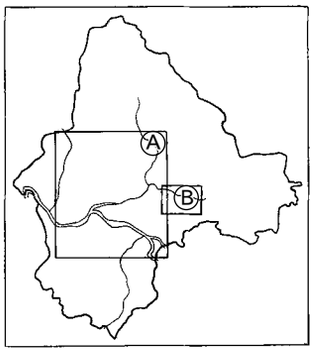
表１　埋蔵文化財の調査件数推移グラフ

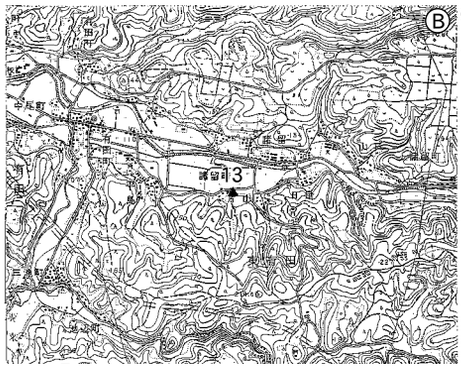


	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
調査員数	2	2	3	4	4	5	3（4）	4	3（4）	4
嘱託職員数	1	1	1	1	1	0	2	1	0	0

表２　平成１３年度発掘･確認調査一覧表

番号	遺　跡　名	所　　在　　地	調査原因	調査面積	調査年月日	備　　考
1	本村遺跡３次	渡里字本村 936-4 ほか	宅地造成	450 ㎡	130401 ～ 130531	前年度継続
2	大肥条里吉竹地区	大肥字榎町 453-1 ほか	圃場整備	8270 ㎡	130401 ～ 130524	前年度継続
3	葛原遺跡	西有田字亀城 1812-3 ほか	農道建設	920 ㎡	130802 ～ 130921	
4	高瀬条里深野田地区	高瀬字深野田 950-1	市道建設	300 ㎡	130808 ～ 130928	
5	今泉遺跡	友田字今泉	市道建設	200 ㎡	131009 ～ 131031	
6	本村遺跡４次	小迫字浄光院 1158-1 ほか	畑地造成	320 ㎡	140109 ～ 140131	
7	朝日宮ノ原遺跡Ｅ区	小迫字十石山ノ上 1510-2	畑地開墾	30 ㎡	140208 ～ 140218	
8	穴観音古墳	内河野字倉園５ほか	確認調査	62 ㎡	140212 ～ 140327	





●発掘、確認調査
▲試掘、立会調査

平成１３年度発掘調査遺跡位置図（1/50,000）

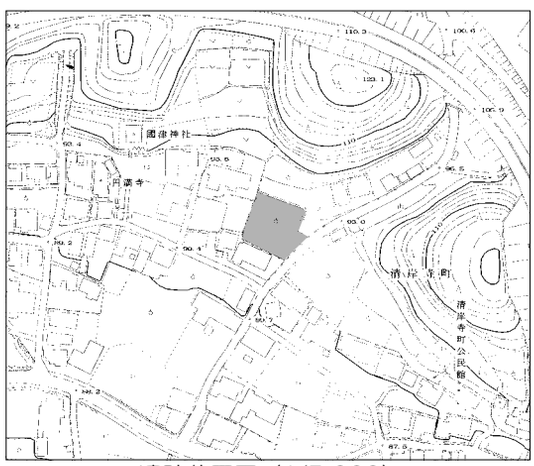
２）発掘調査･確認調査の概要

1. 本村遺跡３次（HMR －３） －宅地造成に伴う発掘調査－

所　在　地	渡里字本村936－4ほか	調 査 面 積	450㎡
調査の期間	130401～130531	担　当　者	行時志郎･若杉竜太

遺跡の概要

遺跡は日田盆地北部の丘陵裾にあたり、遺跡北西部にある辻原台地では古墳時代前期の豪族居館が発見された小迫辻原遺跡、遺跡北側の丘陵上には弥生時代後期から古墳時代前期の墓地群が見つかった草場第２遺跡が存在する。さらに遺跡南側の台地には弥生時代中期の首長墓や後期の環濠集落が発見された吹上遺跡がある。



遺跡位置図（1/5,000）

調査は前年度の継続として行われた。その結果、弥生時代から中世にかけての竪穴住居跡43軒、竪穴遺構２基、溝1条、掘立柱建物２棟が検出された。弥生時代の遺構としては後期後半の時期を中心に竪穴住居跡17軒、竪穴遺構１基がある。これらの住居跡は遺跡北側の草場第２遺跡の甕棺墓や石棺墓と時期的に重複し、これらの墓に埋葬された人々の集落が本遺跡に当たる可能性が十分考えられる。また、この時期の住居跡より仿製の鏡片が１点出土したが、草場第２遺跡の墓からは鏡片が出土しており、このことからも両遺跡の関係を窺うことができよう。

古墳時代以降の住居跡はカマドをもつ後期から奈良時代にかけて26軒が重なるようにして作られており、さらに中世の掘立柱建物跡も検出された。

今回の調査では弥生時代から中世にかけて継続して営まれた集落の姿が明らかになった。平成12年度に行われた本遺跡の東側にある2次調査区では弥生時代後期後半から終末、古墳時代後期から奈良時代にかけての集落が確認されており、その広がりを窺うことができた。また、2次調査区では中世墓が３基検出されており、今回の調査で確認された掘立柱建物との関係も注目することができる。

これまでの本遺跡周辺の調査から、弥生時代後期から中世にかけての遺構を確認することができた。これらの遺構は継続的に営まれている可能性もあり、現在の集落が近世期に成立したと考えれば、弥生時代後期から現在まで集落が断続的しろに営まれていたことになり、各時代の集落景観を復元する上で貴重な成果があったということができよう。（若杉）

鏡片出土状況

17号竪穴住居完掘状況

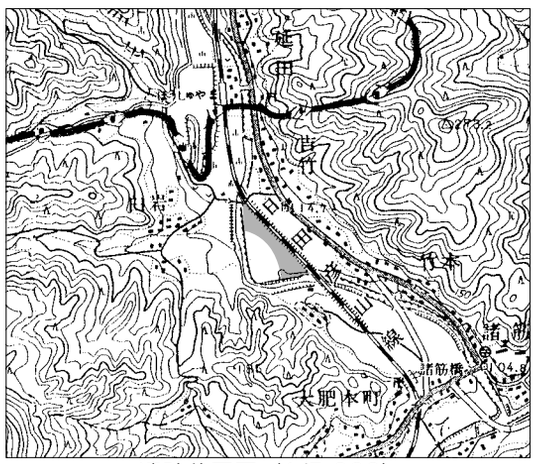
３号竪穴住居完掘状況

2. 大肥条里吉竹地区（OJ － YT） －県営圃場整備事業に伴う発掘調査－

所　在　地	大肥字榎町453－1ほか	調 査 面 積	8,270㎡
調査の期間	130409～130524	担　当　者	渡邉隆行

遺跡の概要

遺跡は大肥川が鶴河内川と合流する地点の手前の大肥川左岸に位置し、やや開けた標高 111 m前後の河岸段丘上に位置する。福岡県との県境にあたり、北にいくと宝珠山村を通り添田方面へ抜け、南には大肥川沿いに大肥条里中村地区、祝原地区、東には大肥条里下河内地区が所在する。



遺跡位置図（1/5,000）

調査は昨年度に引き続いて行った。調査区からは、縄文時代後期の土坑１基、古墳時代の住居跡８基、古代の住居跡 16 基、時期の明確でない住居跡８基、掘立柱建物９基、竪穴状遺構６基、土坑約 20 基、溝４条、流路５条、ピット多数、包含層、中世水田層が検出された。古墳～古代の遺構は明黄褐色砂質土の地山を掘り込んで検出された。ただし、この層自体も縄文時代以降の時期の遺物包含層であることから、大肥川の氾濫を繰り返して形成された層の上に集落が営まれていたものと思われる。

15 号土坑より出土した縄文時代の船元系土器は、日田市内でも初めての出土例である。やや時期は異なるものの、川を下った大肥条里祝原地区では後期～晩期の遺構や遺物が多数検出されており、また鶴河内川沿いには前期の遺構・遺物が検出された大肥条里下河内地区が存在する。これらのことから、大鶴の谷沿いの河岸段丘上が縄文時代には積極的に活用されていたものと考えられる。また、６世紀中頃～８世紀代の住居跡群と多くの建物の存在は、この遺跡が一過性の集落ではなく、この地域の中心となる集落であった可能性が考えられる。特に古代においてはそれらを示すような資料の出土がみられた。１号竪穴遺構からは瓦、住居跡からは『□□六』（16 号住居跡）、『□□四』（18 号住居跡）の字が底面に朱墨にて書かれた須恵器杯身が出土した。いずれも８世紀代の所産であると考えられる。文字の読みについて今後の整理において明らかにしていきたい。また、１号溝から南西側にはほとんど住居跡が検出されず、風倒木などが多数確認された。このことも集落の造営において何らかの意図が所在したことを示しており、この集落の特質を示しているものと思われる。さてこのような状況は、この遺跡が古代の官衙等に相当する施設であった可能性を示唆している。『豊後国風土記』では日田には５郷（在田・夜関・日理、父連、石井）があったと解釈されている。この遺跡の存在は大鶴地域が今一つその地域の比定ができていない夜関郷にあたる可能性を検討する重要な資料であると考えられる。このように、今回の成果はこれまで明らかにされていなかった大鶴地区の古墳～古代の集落がどのように形成されていったのかを明らかとする貴重な資料となりものであり、筑後平野、北九州と日田を結ぶ交通の要所としての大鶴の重要性を検討するための重要な資料と考えられる。

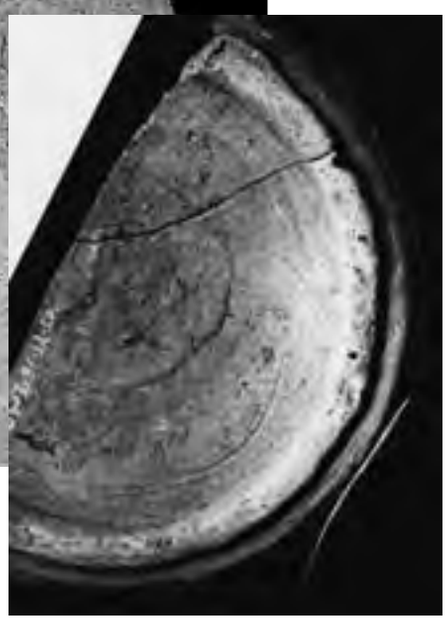
29住
28住
30住
31住
27住
26住
大流路
10溝
9溝
4壁
19住
6溝
30土
24土
7竪
25住
16住
15住
18住
6竪
24住
7号溝
23住
17住
8号溝
9住
10住
3住
8住
7住
2住
1住
5住
6住
4溝
3溝
4号住
2溝
1号建物
1溝
8号建物
9号建物
15土
2土
7号建物
1竪
6号建物
3号建物
2号建物
5号建物
5号建物
古代の遺構
古墳時代の遺構
50m
0

遺構配置図（1/1,000）

遺跡全景

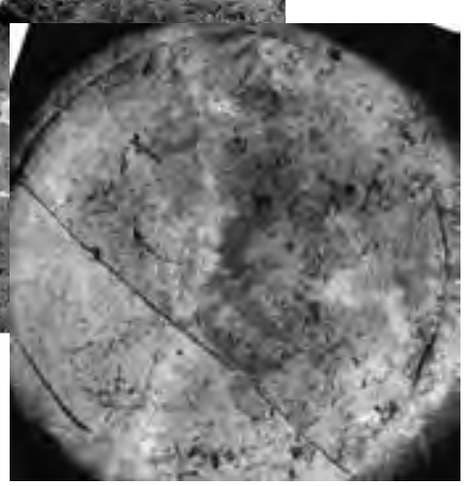
住居跡群

16号竪穴住居跡朱墨出土状況



同朱墨土器出土状況

18号竪穴住居跡朱墨出土状況



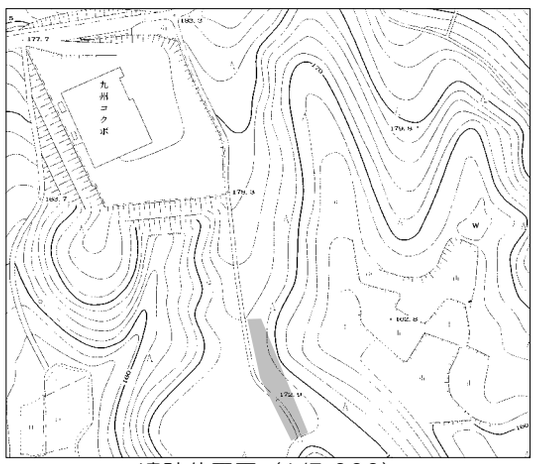
同朱墨土器出土状況

3. 葛原遺跡Ｊ区（KZS － J） －広域農道建設に伴う発掘調査－

所　在　地	西有田字亀城1812－3ほか	調 査 面 積	920㎡
調査の期間	130802～130921	担　当　者	渡邉隆行

遺跡の概要

遺跡は日田盆地北部の花月川によって形成された沖積地との比高差約30m を測る葛原台地上の西端に位置している。遺跡の眼下に広がる沖積地には弥生時代後期の環濠集落が発見された三和教田遺跡、台地南側の丘陵上には西有田赤ハゲ遺跡、やや下った有田川沿いの沖積地には大行事遺跡などが所在する。



遺跡位置図（1/5,000）

昭和62年の調査では弥生時代前期の土坑をはじめ、古墳時代後期の竪穴住居跡などが確認されており、平成６年の調査では弥生時代前期末から後期前半の竪穴住居跡、土坑等が確認されている。今回の調査地点の北西側では平成８年に調査で、縄文時代後期の竪穴住居跡、土坑等が確認されている。また、谷を挟んだ西側には古墳時代後期の円墳である葛原古墳が所在している。

今回の調査地点はこれまでの葛原遺跡の調査地点のうちＪ区にあたる。調査区は葛原台地の東端の独立丘陵の東側に向いた緩斜面上に位置している。調査区中央付近では緩い谷地を形成しており、この谷に沿うように遺構が検出された。調査では、竪穴住居跡13軒、竪穴遺構３基、溝３条、土坑４基、ピットなどが検出された。

竪穴住居跡群は出土した土器から古墳時代後期に位置するものと考えられ、狭い谷地に何度も住居を建替えていることから、調査区周辺が集落立地に適していたのかあるいは何らかの集落立地に規制があったものと考えられる。谷を挟んだ台地上にもこれまでの調査から古墳時代後期の竪穴住居跡が確認されていることから、この台地一帯に古墳時代後期の集落が展開していたものと考えられる。

遺跡全景

調査区全景

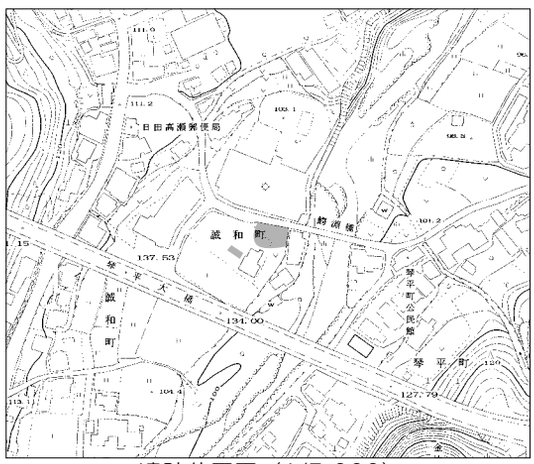
２号竪穴住居跡

4. 高瀬条里深野田地区（TJ － FK） －市道建設に伴う発掘調査－

所　在　地	高瀬字深野田950－1ほか	調 査 面 積	300㎡
調査の期間	130808～130928	担　当　者	行時志郎

遺跡の概要

遺跡は高瀬川左岸河岸段丘上に位置している。遺跡の南側には、津江山系より派生する尾根筋が迫っており、その先端には比較的平坦な台地や丘陵が広がっている。その眼下に展開する沖積地は三隈川と高瀬川による侵食作用により形成され、北に向かって緩やかに傾斜している。調査区はこの沖積地が扇状に広がっていく要の位置にあたる。



遺跡位置図（1/5,000）

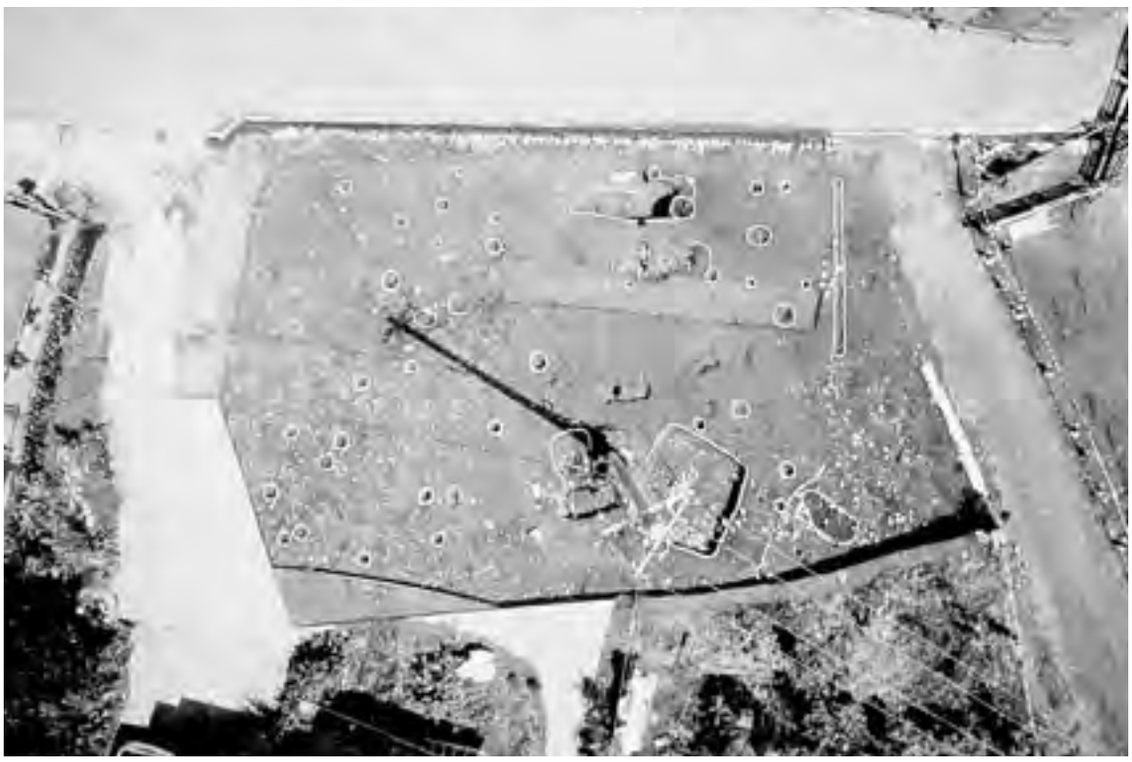
この調査区からは、土坑4基と竪穴遺構1基、時期不明のピット群が検出された。土坑からは、少量ながら縄文時代後期の特徴を持つ磨消縄文土器が出土し、竪穴遺構からは、古墳時代中期の特徴を持つ甕や高杯が数点出土した。土坑の中央には、小さいピットが検出されたものもあったことから落とし穴状遺構の可能性が高く、この一体が、縄文時代の狩猟の場としての機能していたと考えられる。また、古墳時代の遺構は、竪穴遺構1基のみの検出であったが、隣接して調査された高瀬条里深ノ田遺跡からも、弥生時代終末から古墳時代前期の竪穴住居跡と見られる遺構が重複して確認されており、弥生～古墳時代の集落の広がりが推測される[1]。

調査の成果として、この遺跡の北側で調査された高瀬条里永平寺地区や、高瀬川右岸に広がる惣田遺跡などを見ると、縄文時代から中世にかけて何らかの形で生活の跡が残されており、この地域一帯の沖積地が古くから土地利用がさかんに行われてきた場所であったことが明らかとなった。

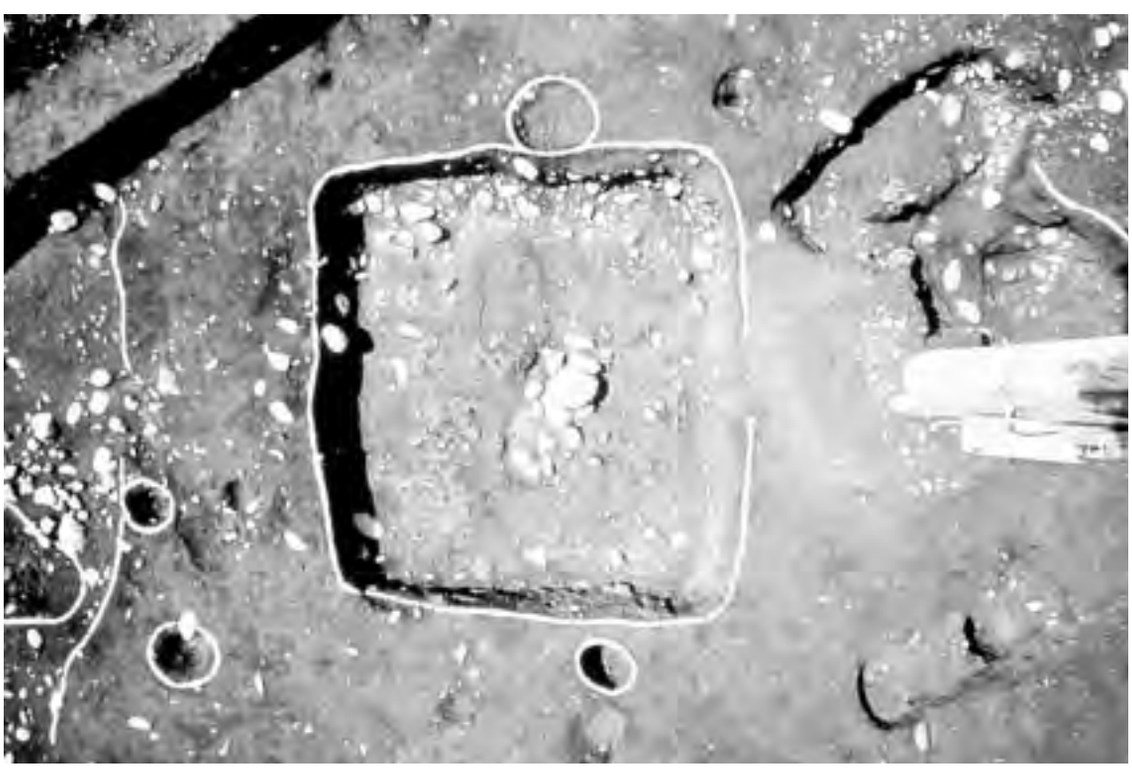
近年この地区は、今回の調査の起因となった市道建設などとともに小規模な宅地開発が盛んに進んできている地域であり、住民の方の文化財に対するご理解とご協力が必要な地域のひとつである。

註（1）　友岡信彦･吉田寛「第６章　高瀬深ノ田遺跡」田中祐介編『日田市高瀬遺跡群の調査Ⅰ』一般国道210号日田バイパス建設に伴う発掘調査報告書Ⅰ大分県教育委員会1995

遺跡全景



遺跡全景



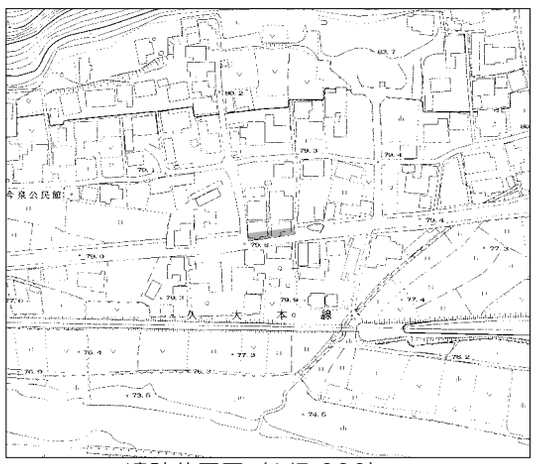
１号竪穴遺構

5. 今泉遺跡（IMI） －市道建設に伴う発掘調査－

所　在　地	友田字今泉1413-3ほか	調 査 面 積	200㎡
調査の期間	131009～131031	担　当　者	行時志郎･渡邉隆行

遺跡の概要

遺跡は日田盆地北部を西流する花月川右岸の河岸段丘上に位置する。北側の吹上台地上には細形銅剣、銅矛、鉄剣、ガラス管玉、貝輪などの多様な副葬品を持つ木棺、甕棺墓群が発見された吹上遺跡があり、遺跡東側には1342年に創建された岳林寺が所在し、花月川を挟んだ対岸の沖積地には弥生時代から中世の溝が発見された郷四郎遺跡があり、花月川との合流点付近には古墳時代の鍛冶遺構･祭祀遺構などが発見された荻鶴遺跡があり、台地側には古墳時代後期の円墳である三郎丸古墳、独立丘陵の周囲に横穴墓が巡る星隈横穴墓群が見られる。



遺跡位置図（1/5,000）

遺跡はこれまで市道改良に伴って２次の確認調査を行っており、今回は３次の調査にあたる。調査区からは弥生時代の竪穴住居跡１軒、溝１条、６世紀後半と７世紀中頃～後半の溝２条、古墳～古代の竪穴住居跡１軒、中世以降の溝１条が検出された。

弥生時代の竪穴住居跡の時期は後期前半～中頃に属しており、吹上遺跡の集落継続期間とも合致することから、台地上での集落形成以外に、台地の眼下に広がる沖積地を利用していたことが明らかとなった。これまで、吹上遺跡の周辺においては、台地以外の箇所で集落が発見された例がなく、また、吹上の台地上では後期の末にかけて環濠集落が形成されるようになることから、その前段階において、台地以外の場所にも集落が広がっていった状況を示している。また、古墳時代から古代の遺構の存在は、台地崖面に所在する北友田横穴墓群の被葬者の集落の存在を示すものと考えられ、被葬者の集落が横穴墓近辺に立地する日田市内での傾向とも合致している。

今回の調査から、これまで想定されていなかった花月川と吹上台地の間の狭い沖積地の利用状況があきらかとなった。しかし、遺跡のすぐ東には、1342年に元の渡来僧明極楚俊を開基として大蔵永貞によって建立された岳林寺があり、遺跡一帯はこの境内範囲にあたる。今回の調査からはその状況を示す資料の出土は見られなかった。岳林寺との関連については今後の調査の課題と言えよう。（渡邉）

遺跡全景

遺跡全景

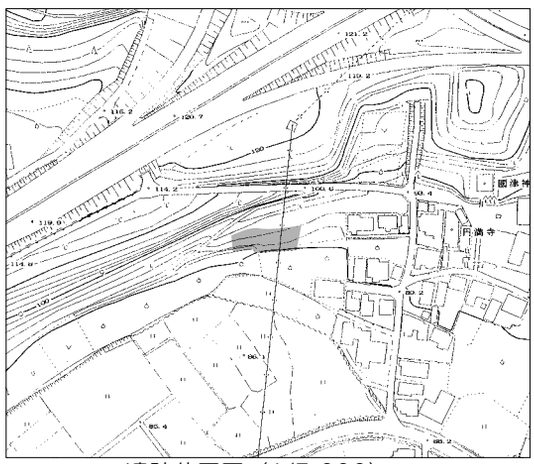
２号竪穴遺構

6. 本村遺跡４次（HMR －４） －畑地造成に伴う発掘調査－

所　在　地	小迫字浄光院1158－1ほか	調 査 面 積	320㎡
調査の期間	140109～140131	担　当　者	行時志郎･若杉竜太

遺跡の概要

本村遺跡は盆地北部の丘陵裾部に位置する。本遺跡はこれまでに３次にわたる調査が行われており、弥生時代から近世にいたる遺構が調査されている。４次調査区の東隣での２次調査、同じく東約100ｍの地点で行われた３次調査では住居跡より弥生時代後期後半～終末にかけての「タタキ整形」を行った長胴甕などが主体で出土している。３次調査ではこの時期の住居跡から仿製鏡片が出土したが、これらの住居跡の時期が調査区北側丘陵上にある草場第２遺跡での墓地群の時期と一致する上、同遺跡より鏡片も表採されている。このことから両遺跡は密接な関係にあることが伺え、墓地群に埋葬された人々の集落が本遺跡周辺一帯であった可能性が十分に考えられる。


遺跡位置図（1/5,000）

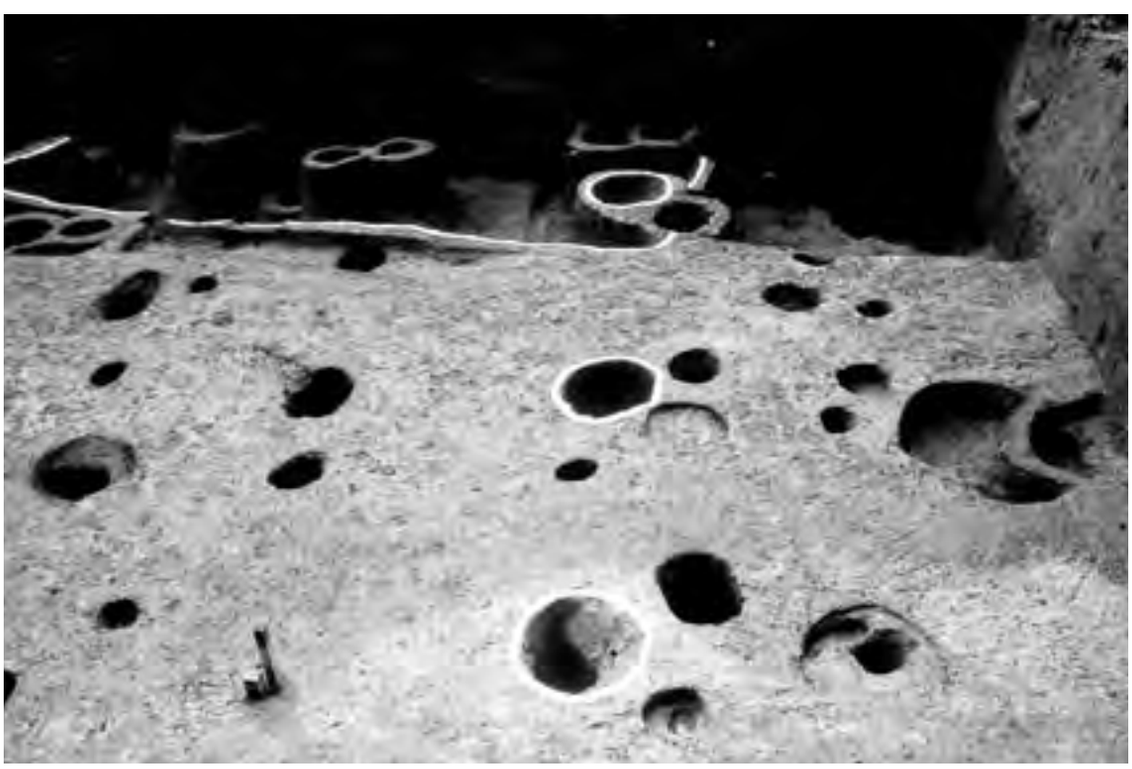
今回の調査では２次調査区で確認された集落の広がりを想定して行ったが、予想以上に遺構の密度は低く、弥生時代から古代にかけての遺構は確認することができなかった。遺構は２次調査区に隣接する東側は密度が低く、西側にいくにつれ、密度が高くなっていた。確認された遺構としては平安時代から中世の掘立柱建物２棟、竪穴遺構２基、土坑６基、柱穴が多数検出された。

平安時代の遺構としては竪穴遺構が挙げられる。遺構内からは10～11世紀にかけての土師器質土器が出土している。また、中世の掘立柱建物のうち１棟は2間×３間、もう１棟は桁行が２間以上の建物が検出された。柱穴内より16世紀代の土器が出土している。

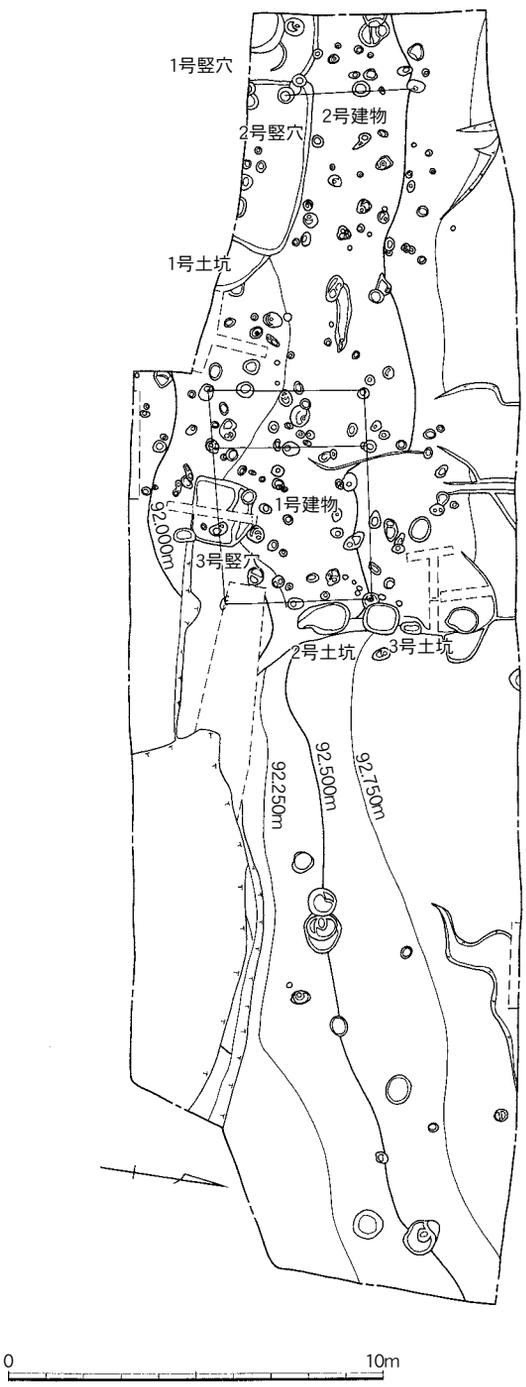
今回の調査では２次調査区で確認された弥生時代から古墳時代にかけての遺構は確認されなかった。地形の現状からみると削平の度合いは少ないとみられるので、２次調査区から東側へは当該期の遺構の広がりは少なかった可能性もある。一方、古代の後半から中世にかけての遺構が確認できたことから２次調査の成果と合わせて、この時期の集落の広がりをある程度想定することはできよう。また、調査区の南東側には規模の大きい落ち込みが見られることから古い段階から現在の地形に近い整地を行い、耕地として利用されていたと考えられる。（若杉）

遺跡全景

１号掘立柱建物



２号掘立柱建物



遺構配置図（1/200）

１号竪穴遺構

２号土坑

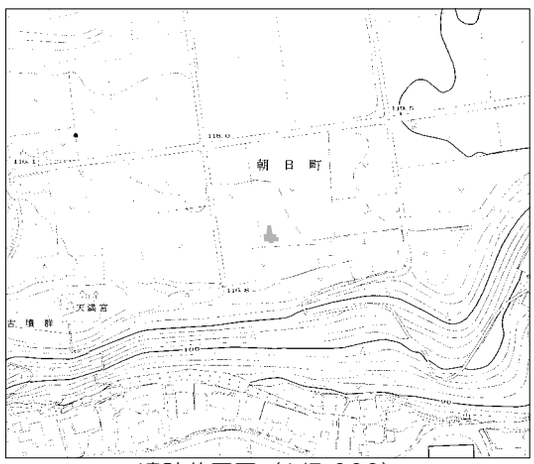
３号土坑

7. 朝日宮ノ原遺跡 E 区（AMS － E） －畑地開墾に伴う確認調査－

所　在　地	小迫字十石山ノ上1510－2	調 査 面 積	30㎡
調査の期間	140208～140218	担　当　者	行時志郎

遺跡の概要

遺跡は日田盆地北部の通称宮原台地上に存在する。これまでこの台地上では、昭和28年に鏡山猛･松尾禎作先生により発掘調査が行われ、甕棺墓出土の報告が行われて以降[1]、農家の方による地力増進事業（耕作土の天地返し）などに伴い事前の発掘調査や確認調査が進められてきた。その結果、弥生時代から古墳時代前期にかけての集落や墓地、また中世の集落や墓地など数多くの遺跡が発見されている。



遺跡位置図（1/5,000）

今回の調査に至った経緯は、農家の方が畑の耕作中にトラクターの爪が甕棺に引っかかり、内部から人骨が見つかり教育委員会に連絡が入ったことによる。その後、対応を協議し、農家の方に約2週間の調査期間の承諾を得て、国庫補助事業で緊急調査を実施することとなった。

調査では、発見された甕棺以外にも周辺に遺構の存在する可能性が高いことから、まず甕棺墓周辺にトレンチを設定し遺構の存在を判断するための確認作業を行っていった。その結果、甕棺墓のほか、石蓋土坑墓1基、土坑墓2基、木棺墓2基、甕棺の抜き取り跡と見られる土坑1基が密接して検出された。

甕棺墓については、人骨の状況を詳細に記すため、九州大学田中良之先生にこれに関する指導と人骨の取り上げをお願いした。人骨はこの甕棺墓のほか、石蓋土坑墓の中からもわずかに腐食した歯の一部が出土した。

調査の成果としては、甕棺の形状から弥生時代中期後半から末にかけての製作年代が考えられる。また、その周囲の墓の切り合い関係の状況から、1号木棺墓→甕棺墓→1号土坑墓の順に造られていることが伺えた。これまでの調査および地元の方の話を聞く中では、台地北端（D 区）で、弥生時代終末から古墳時代前期の墓地群が調査され[2]、また台地東南端でも石棺墓の棺材と見られる安山岩の扁平石が耕作中に見つかっており、台地縁辺部は今回の調査区も含めて、時代を少しずつ変えながらも広く墓地としての利用がされていった様子がうかがえた。

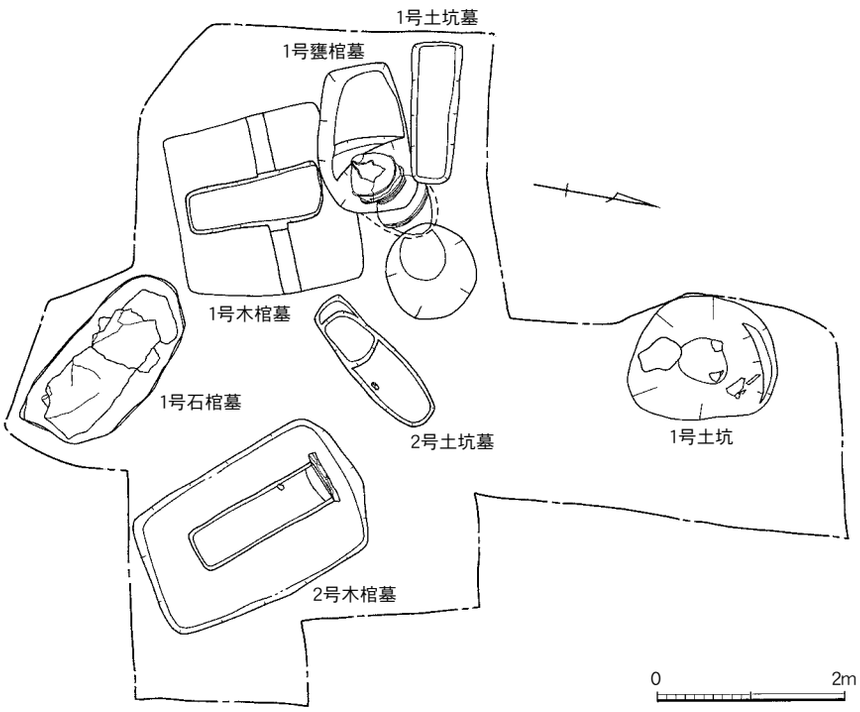
註（1）　賀川光夫「第４章　弥生文化（五）弥生時代の墓制」『大分県の考古学』吉川弘文館1971
註（2）　土居和幸「朝日宮ノ原遺跡（D 地区）」土居和幸編『日田地区遺跡群発掘調査概要報』Ⅳ日田市教育委員会1989

１号石棺墓検出状況

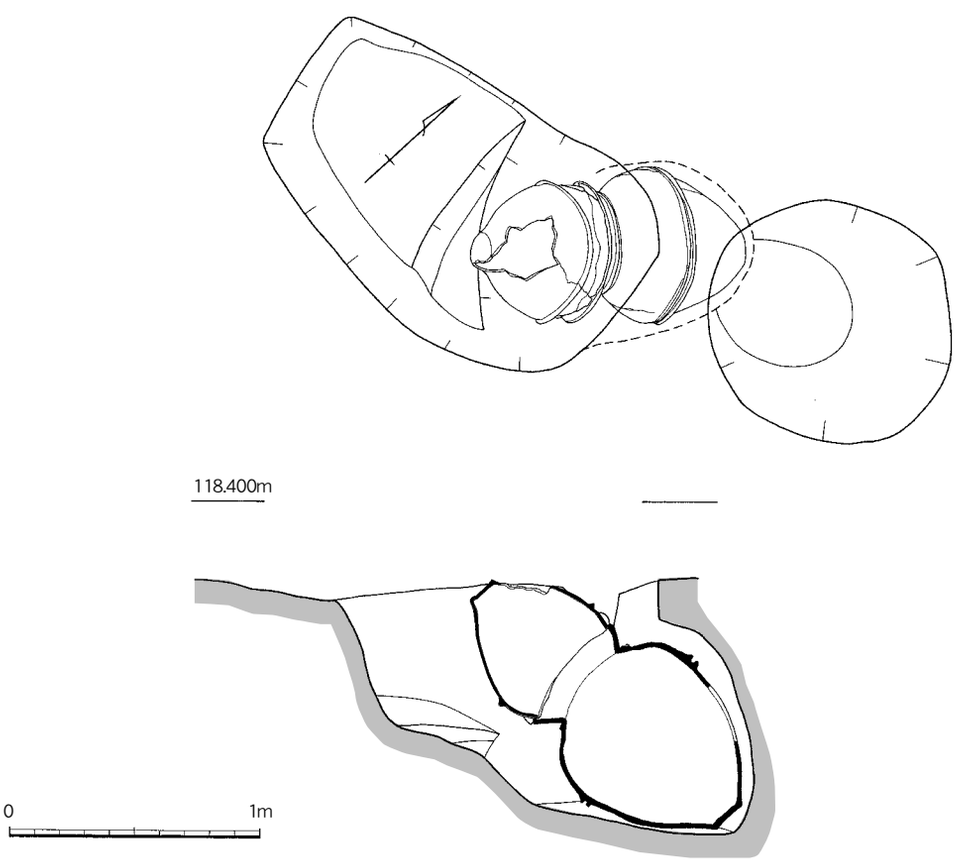
１号石棺墓完掘状況

1号甕棺墓

1号甕棺墓人骨出土状況



遺構配置図（1/80）



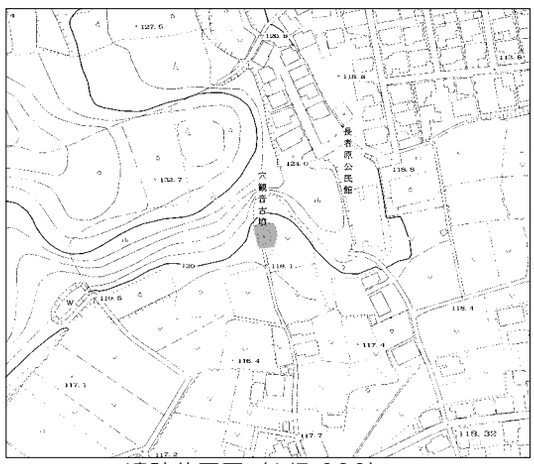
１号甕棺墓実測図（1/30）

8. 穴観音古墳（ANK）　－範囲内容確認のための確認調査－

所　在　地	内河野字倉園５ほか	調 査 面 積	62㎡
調査の期間	140212～140327	担　当　者	若杉竜太

遺跡の概要

穴観音古墳は三隈川南岸の台地上に位置する円墳である。古墳の規模は現状で径約12m、高さ約２ｍである。主体部は複室構造の横穴式石室で、前室両側壁･玄室右側壁･玄室奥壁に赤や緑を使った装飾が描かれている。これらの装飾文様の保護を目的として昭和47年に古墳を覆う屋根と史跡地を取り囲むブロック塀が設置されたが、これにより墳丘盛土の乾燥が進行し、盛土の流出、石室内への外気の進入などにより、装飾の退色･石室の劣化などが問題となっている。今回の調査は今後の古墳の保存対策と追加指定を目的とした古墳の範囲内容の確認を目的として行った。



遺跡位置図（1/5,000）

調査では古墳の周囲にトレンチを設定し、掘下げを行った。その結果、８本すべてのトレンチより周溝が確認され、また、１トレンチからは上面の削平を受けてはいたものの版築状に盛土された墳丘の一部が確認できた。確認された周溝は幅70～80cm、深さ50～60cm の規模である。

この結果、周溝の外側までを含めた古墳の規模は径約25m となることが確認された。また、トレンチ内より出土した須恵器より古墳の築造時期は６世紀末から７世紀初頭と考えられ、従来から考えられてきた年代観と大きく隔たらないことが確認できた。

今回の調査では墳丘規模、周溝の確認ができ、築造年代を再確認することができた。今後の課題としては、墓道付近の確認を行い、それに伴った周溝がどのような形態になるのか、また、古墳北側の崖面が古墳の築造築造に伴って削平されたものなのか、中世期の土塁なのか、などを確認すべき課題は多い。

遺跡全景

1トレンチ周溝

墳丘版築

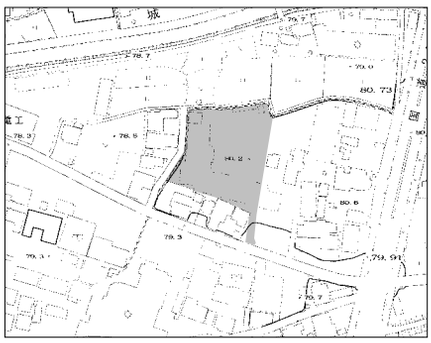
3）試掘調査･立会調査･照会の概要

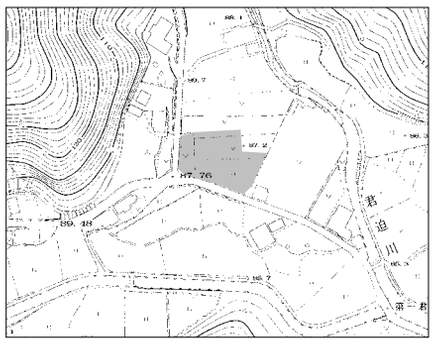
表３　試掘･立会調査一覧表

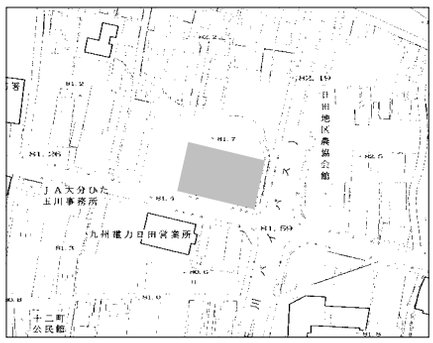
	遺跡名	事業目的	調査場所	開発面積	調査面積	調査期間	遺跡の時代	検出遺構	出土遺物	処置
9	日田条里隣接地	幼稚園新築	十二町字浄明寺 57-1 外	3,870 ㎡	20 ㎡	130518	-	なし	なし	工事実施
10	君迫遺跡隣接地	作業所・倉庫用地造成	二串字石原田 762-2 外	1,606 ㎡	20 ㎡	130525	-	なし	なし	工事実施
11	日田条里前田地区	店舗建設	十二町字前田 601-1 外	5,060 ㎡	20 ㎡	130608	-	なし	なし	工事実施
12	葛原遺跡	駐車場造成	西有田字葛原 810-1	960 ㎡	40 ㎡	130612 ～ 13	縄文・弥生	住居・柱穴	縄文土器・弥生土器	盛土による工事実施
13	平島遺跡	工場造成	東有田字太郎浦 2067-1 外	2,587 ㎡	20 ㎡	130705	-	なし	なし	工事実施
14	朝日ヶ丘遺跡	市営住宅建設	小迫字中根の上 438-2	3,900 ㎡	117 ㎡	130710	-	なし	なし	工事実施
15	高瀬条里深野田地区	市道建設	高瀬字深野田 809-6	4,500 ㎡	15 ㎡	130719	-	なし	なし	工事実施
16	鍛冶屋廻り遺跡	宅地造成	小迫字中村 73	984 ㎡	30 ㎡	130723 ～ 25	弥生・中世	土坑・柱穴	弥生土器・土師器	工事実施
17	草場第二遺跡隣接地	事業用地造成	渡里字一木出 847-1 外	2,800 ㎡	20 ㎡	130731 ～ 0803	-	なし	土器	工事実施
18	大肥条里中村地区	公園建設	大肥字乙丸 2790-3	912 ㎡	10 ㎡	130912	-	なし	なし	工事実施
19	日田条里花月小坪地区	共同住宅建設	花月字小坪 184-1	741 ㎡	10 ㎡	130914	-	なし	なし	工事実施
20	本村遺跡	畑地造成	小迫字浄光院 1183 外	1,683 ㎡	10 ㎡	130925	弥生～中世	墓・柱穴・住居	弥生土器・土師器	発掘調査実施
21	日田条里花ノ木地区	貸駐車場用地造成	十二町字花ノ木 523-5	1,159 ㎡	34 ㎡	131026	古代～近世	土坑･水田遺構	土器	盛土による工事実施
22	徳瀬遺跡隣接地	共同住宅建設	友田字徳瀬 400-1	908 ㎡	35 ㎡	131115	古墳～近世	なし	須恵器・土師器・陶磁器	工事実施
23	三和教田遺跡Ｉ地点	宅地造成	三和字西ノ更 2654 外	2,819 ㎡	83 ㎡	131121 ～ 22	縄文～古墳、中世	流路跡・溝・柱穴	須恵器・土師器・陶磁器	一部発掘調査実施
24	会所山遺跡隣接地	宅地造成	竹田字鬼塚 353-13 外	6,300 ㎡	142 ㎡	131205	中世	水田遺構	土師器	工事実施
25	赤米田遺跡	市道建設	小山字月ノ原 443 外	1,100 ㎡	22 ㎡	131219	-	なし	なし	工事実施
26	日田条里五反田地区	住宅建設	三和字五反田 659-4 外	409 ㎡	27 ㎡	140117	-	なし	なし	工事実施
27	日田条里高外場地区	市道建設	上城内町 1107-5 外	8,000 ㎡	39 ㎡	140129	-	なし	土師器	工事実施
28	柴尾遺跡隣接地	残土処理場建設	西有田字籠田 2125-1 外	3,000 ㎡	12 ㎡	140131	-	なし	なし	工事実施
29	日田条里飛矢地区	教会新築工事	田島字飛矢 259	637 ㎡	32 ㎡	140209	弥生・中世	住居・溝・土坑・柱穴	弥生土器・土師器	発掘調査実施
30	大肥条里大肥地区	農業基盤整備	大肥字中島外	250,000 ㎡	1,510 ㎡	140212 ～ 0304	弥生～古代	住居・溝・土坑	弥生土器・須恵器・土師器	一部発掘調査実施
31	求来里平島遺跡他	農業基盤整備	求来里字平島外	200,000 ㎡	275 ㎡	140311 ～ 20	弥生～中世	住居・柱穴	弥生土器・土師器・須恵器・輸入陶磁器	一部発掘調査実施
32	小寒水遺跡	宅地転用	有田字五反田 1539-1 外	1,620 ㎡	30 ㎡	140325	古代	溝	土師器	盛土による工事実施
33	今泉遺跡	市道建設	友田字今泉 1413-3 外	6,960 ㎡	15 ㎡	140305	弥生～中世	柱穴・土坑	弥生土器・土師器	盛土による工事実施
34	葛原遺跡	広域農道建設	西有田字亀城 1825-2 外	13,530 ㎡	220 ㎡	130802	-	-	-	工事実施

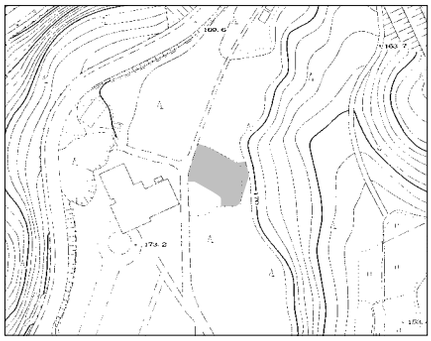
表４　書類審査のみ照会一覧

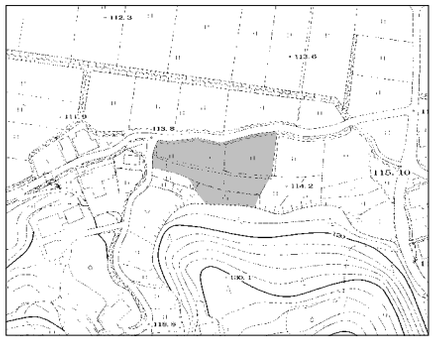
受付月日	事業主体	事業目的	予定場所	開発面積	備考
2001/4/2	民間	宅地造成	夜明字深田 3744 他	1,318 ㎡	
2001/5/1	民間	中間積み替え施設建設	花月字鳴石 2351- 1 他	4,131 ㎡	
2001/5/29	民間	グラウンド造成	三和字大更 164 － 1 他	1,187 ㎡	
2001/6/5	民間	資材置場造成	内河野字鹿廻 1711-3 他	10,985 ㎡	
2001/6/5	民間	資材置場造成	内河野字鹿廻 1711-4 他	8,012 ㎡	
2001/6/6	民間	畜産施設用地造成	高瀬字ミノ 3888 他	18,500 ㎡	
2001/6/19	民間	墓地造成	三和字茶園畑 574-1 他	2,237 ㎡	
2001/6/19	民間	宅地造成	十二町字浄明寺 64-2 他	5,425 ㎡	
2001/6/21	民間	畜舎用地造成	渡里字向原 495-2 他	4,877 ㎡	
2001/7/5	民間	排水設備付設	夜明字深田 3739 他	10 ㎡	
2001/7/11	民間	宅地造成	十二町字前川 241-5 他	845 ㎡	
2001/7/25	民間	店舗新築	渡里字佐屋ノ元 3-1 他	3,140 ㎡	
2001/7/30	民間	敷地造成	山田字山ノ口 1223-1	4,000 ㎡	
2001/8/15	民間	アパート建設	三和字前田 245-1 他	651 ㎡	
2001/9/25	民間	無線基地局建設	夜明字北方谷 86-2	100 ㎡	
2001/10/9	公共	市道建設	内河野字平林 172-1 他	170 ㎡	一部次年度試掘調査実施
2001/10/15	民間	アパート建設	三和字喜四郎 155 他	1,705 ㎡	
2001/10/18	民間	住宅建設	有田字西ノ迫 933-3	135 ㎡	
2001/11/28	公共	市営住宅建設	小迫字小迫ノ上 352-31 他	4,689 ㎡	
2001/11/30	公共	農業基盤整備	夜明字エゴ 1851-1 他	3,700 ㎡	次年度試掘調査実施予定
2001/12/28	民間	農地造成	小野字椰野 2294-1 他	4,149 ㎡	
2002/1/25	民間	駐車場用地造成	竹田新町 687-1 他	1,846 ㎡	
2002/1/30	民間	貸店舗用地造成	十二町字水町 671-2 他	1,830 ㎡	
2002/1/31	民間	工場建設	西有田字上ズダリ 459 他	37,000 ㎡	次年度試掘調査実施
2002/2/18	民間	倉庫用地造成	庄手字堤の外 652-16 他	27,310 ㎡	
2002/2/20	民間	資材置場造成	高瀬字辻原 1809-1 他	1,475 ㎡	次年度試掘調査実施
2002/2/22	民間	老人福祉説建設	三和字貞清ノ上 1272-2 他	4,658 ㎡	次年度試掘調査実施
2002/2/20	民間	岩石採取	内河野字鹿廻 1711-3 他	21,821 ㎡	
2002/2/18	民間	用地売却	丸山１丁目 9-1	565 ㎡	次年度試掘調査実施
2002/3/7	民間	資材置場造成	石井字津辻の前 1904-1	1,681 ㎡	

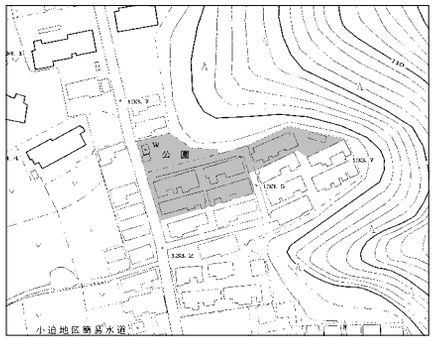

日田条里隣接地（1/5,000）

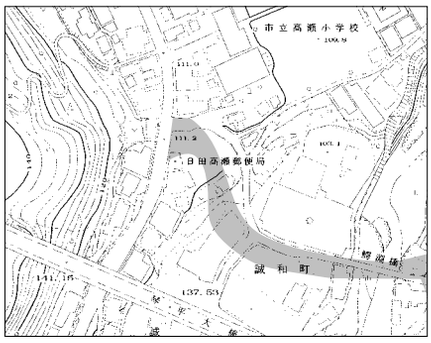

君迫遺跡隣接地（1/5,000）

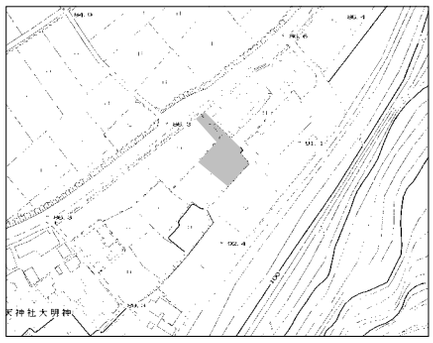

日田条里前田地区（1/5,000）

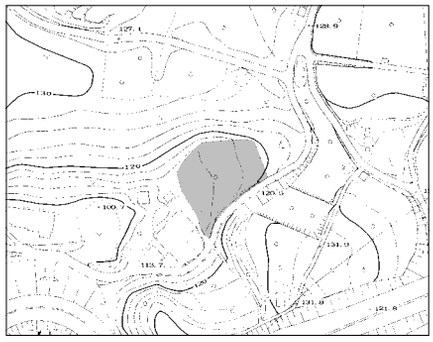

葛原遺跡（1/5,000）

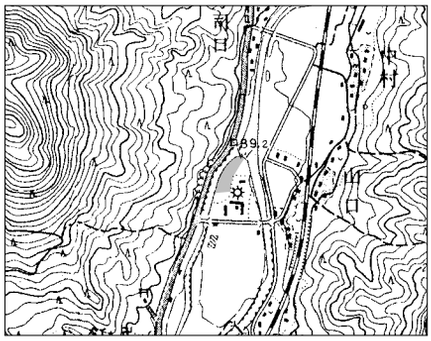

平島遺跡（1/5,000）

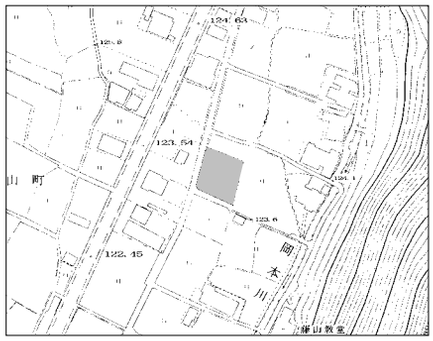

朝日ヶ丘遺跡（1/5,000）

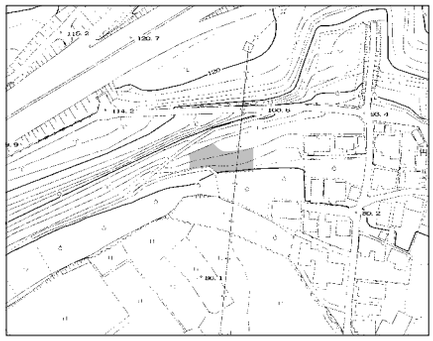

高瀬条里深野田地区（1/5,000）

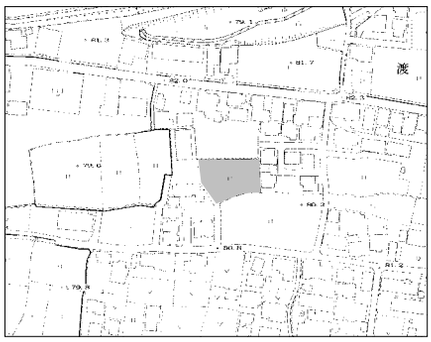

鍛冶屋廻り遺跡（1/5,000）

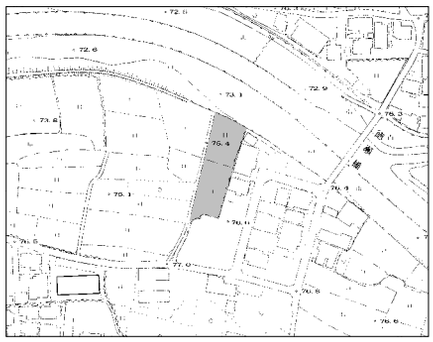

草場第二遺跡隣接地（1/5,000）

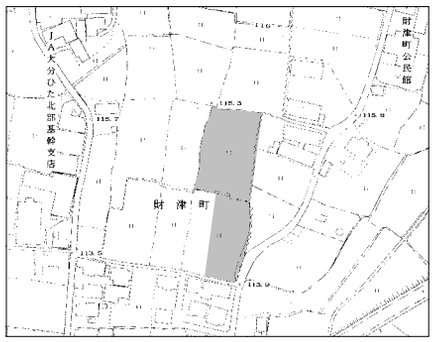

大肥条里中村地区（1/25,000）

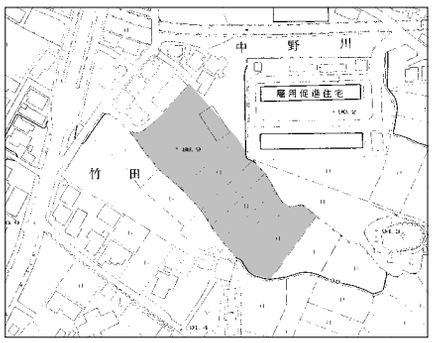

日田条里花月小坪地区（1/5,000）


本村遺跡（1/5,000）

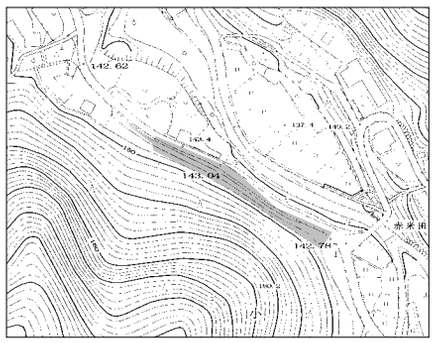

日田条里花ノ木地区（1/5,000）


徳瀬遺跡隣接地（1/5,000）

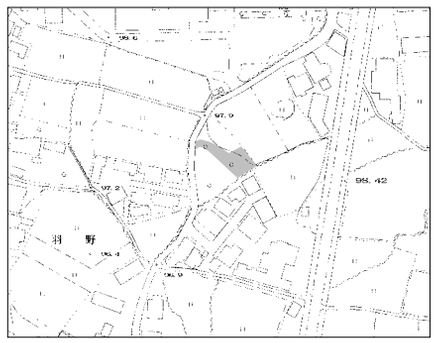

三和教田遺跡Ⅰ地点（1/5,000）



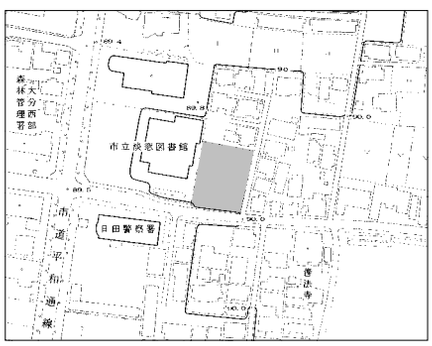
会所山遺跡隣接地（1/5,000）



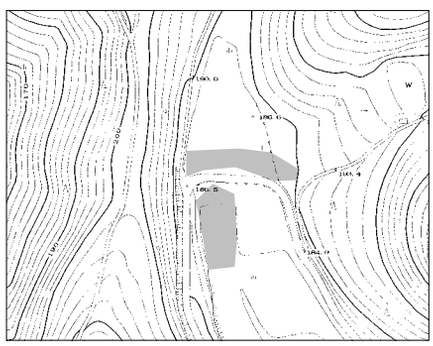
赤米田遺跡（1/5,000）

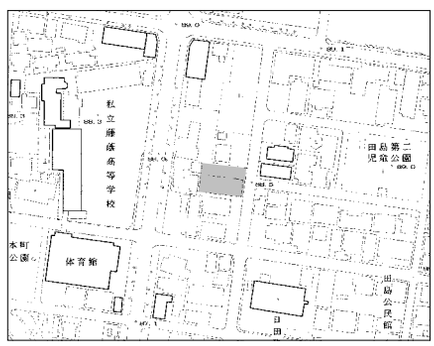


日田条里五反田地区（1/5,000）

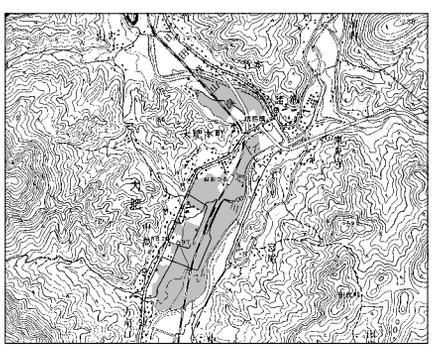


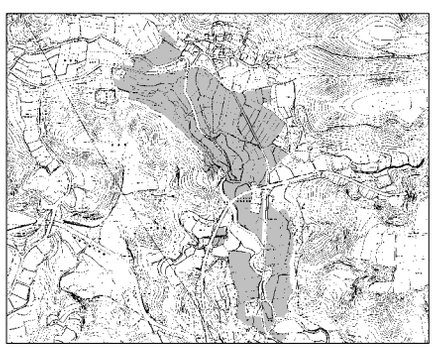
日田条里高外場地区（1/5,000）

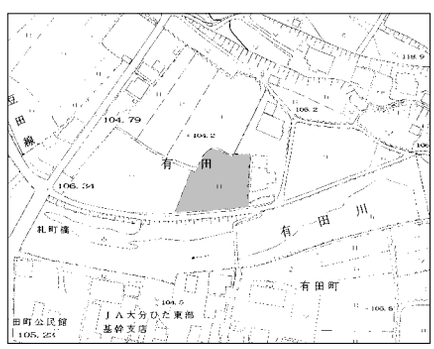

柴尾遺跡隣接地（1/5,000）



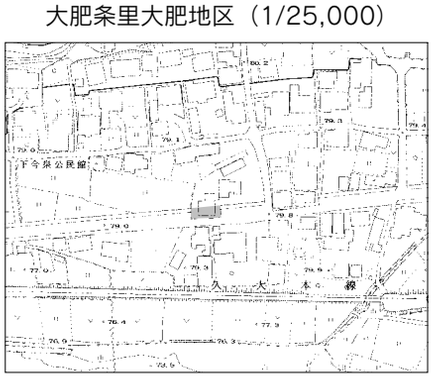
日田条里飛矢地区（1/5,000）


大肥条里大肥地区（1/25,000）

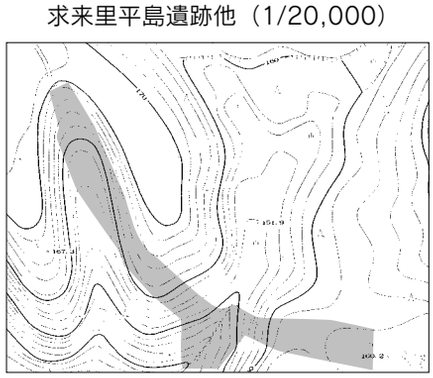

求来里平島遺跡他（1/20,000）



小寒水遺跡（1/5,000）



今泉遺跡（1/5,000）


葛原遺跡（1/5,000）

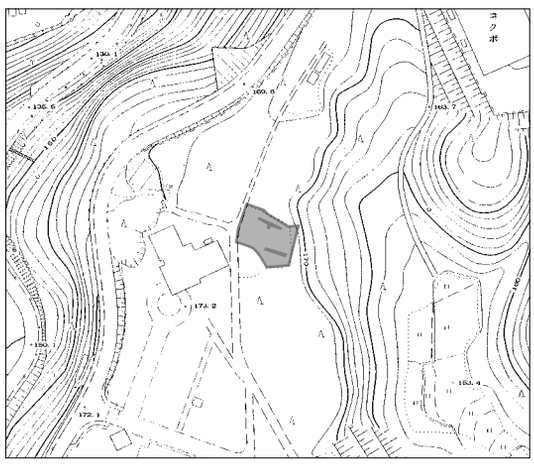
主な試掘調査の概要

12. 葛原遺跡Ｋ区　－駐車場造成に伴う試掘調査－

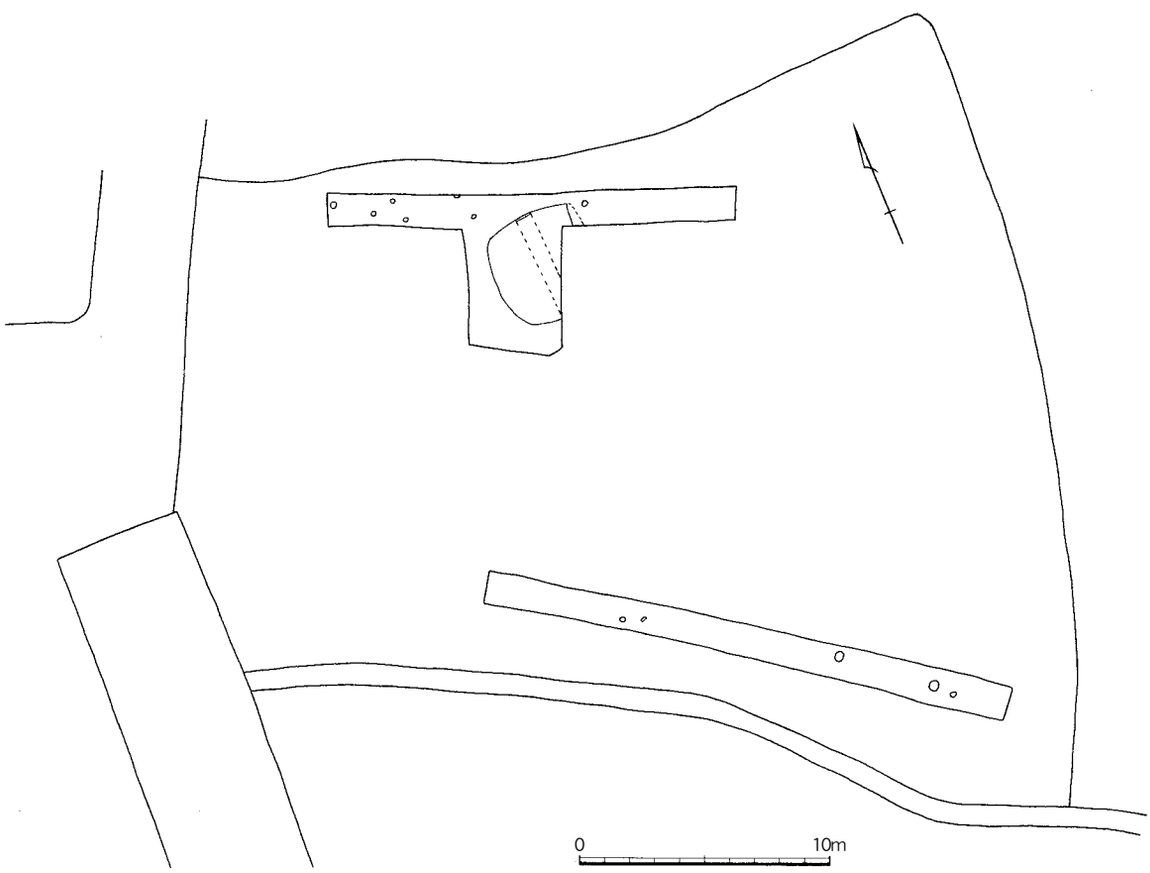
所　在　地　西有田字葛原810－1	調 査 面 積　40㎡
調査の期間　0612～0613	担　当　者　行時志郎

遺跡の概要

調査では工事予定区域内に２ヶ所のトレンチを設定し、機械により地山面まで掘下げ、遺構検出、遺構の一部掘下げを行った。その結果、弥生時代の竪穴住居跡や柱穴が分布していることが判明し、集落の広がりを確認することができた。遺物は弥生土器のほか、縄文土器も出土した。工事については、簡易な盛土工法で行うため、全面発掘は行わずに、写真撮影、実測を行った後に埋め戻した。



遺跡位置図（1/5,000）



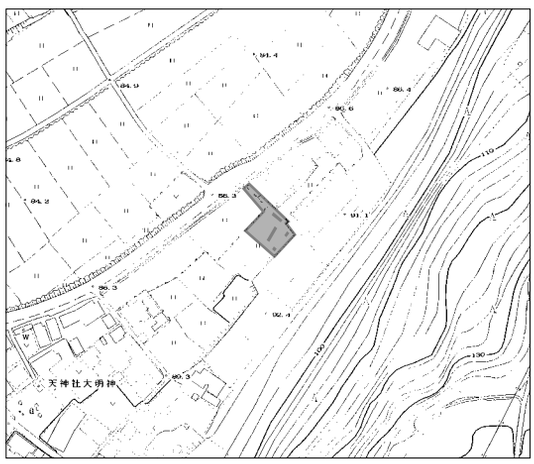
トレンチ配置図（1/300）

16. 鍛冶屋廻り遺跡　－宅地造成に伴う試掘調査－

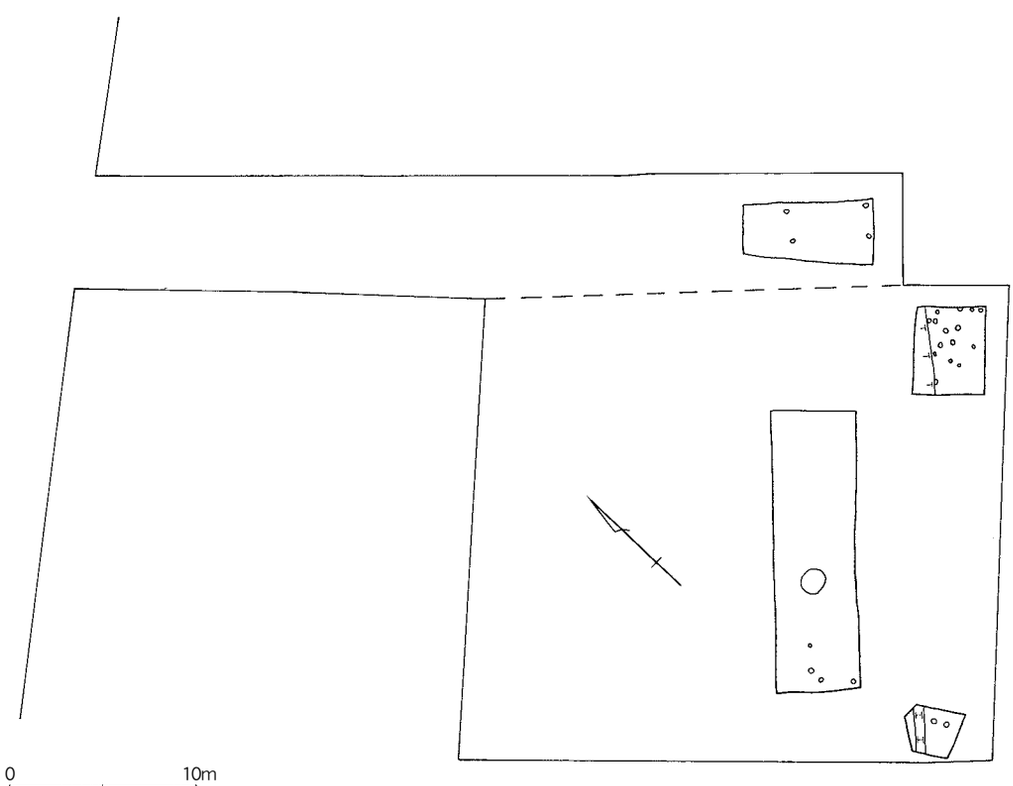
所　在　地　小迫字中村73	調 査 面 積　30㎡
調査の期間　0723～0725	担　当　者　行時志郎

遺跡の概要

調査では工事予定区域内に４ヵ所のトンレチを設定し、機械により地山面まで掘下げ、遺構検出、遺構の一部掘下げを行った。その結果、弥生時代及び中世の土坑・柱穴が確認され吹上遺跡・小迫辻原遺跡の存在する台地に挟まれた谷部での集落の存在が確認され、本村遺跡と同様な集落が存在することが想定された。遺物は弥生土器、土師器が出土した。工事については道路部分や法面カットなどの工法で行われるものの、掘削は遺構面まで及ばないことから全面発掘は行わずに写真撮影、実測を行った後、埋め戻した。



遺跡位置図（1/5,000）



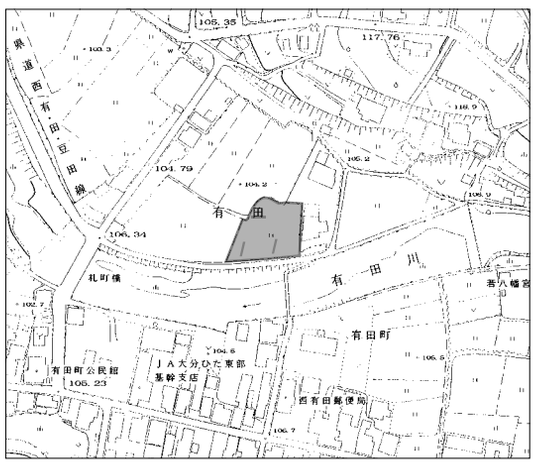
トレンチ配置図（1/400）

32. 小寒水遺跡　－宅地転用に伴う試掘調査－

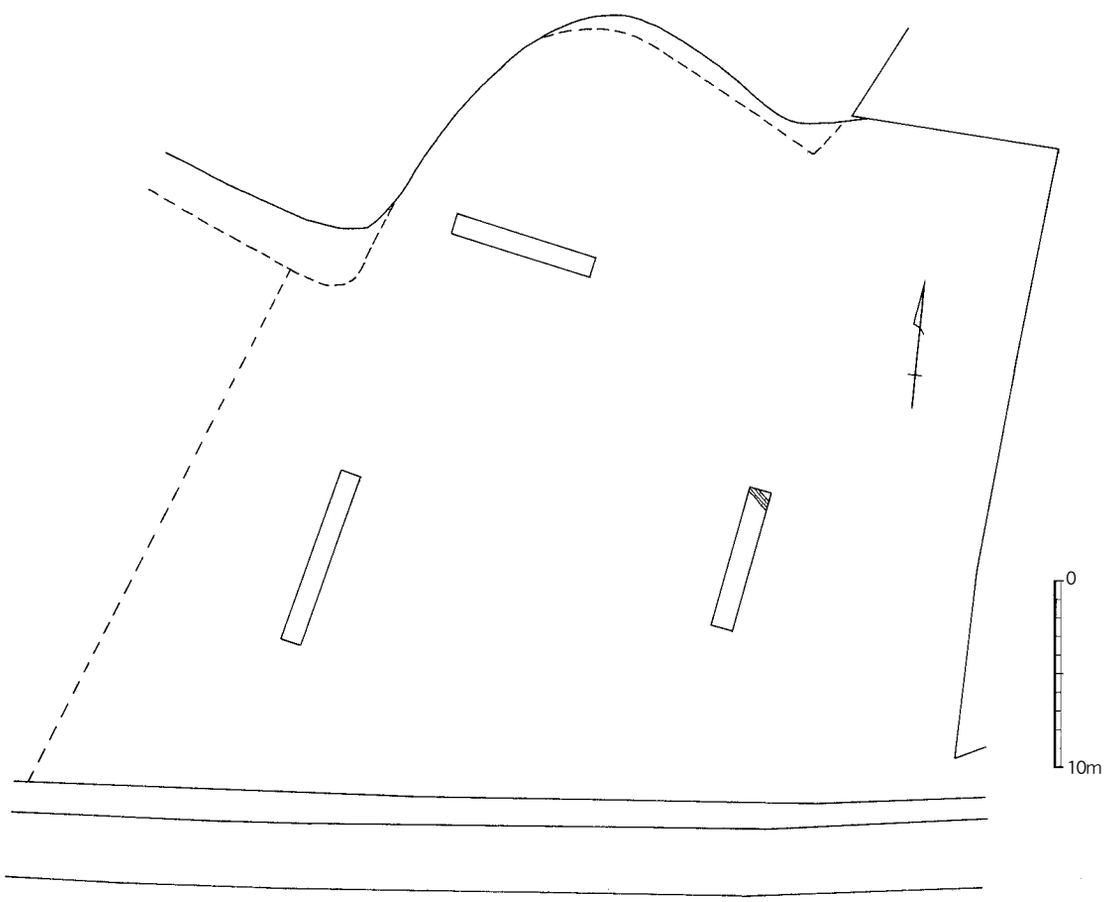
所　在　地	有田字五反田1539－1ほか	調 査 面 積	30㎡
調査の期間	0325	担　当　者	渡邉隆行

遺跡の概要

調査では工事予定区域内に３ヶ所のトンレチを設定し、機械により地山面まで掘下げ、遺構検出、遺構の一部掘下げを行った。その結果、古代の溝１条と土師器が数点確認された。工事については盛土工法で行うため。全面発掘は行わずに、写真撮影、実測を行った後に埋め戻した。



遺跡位置図（1/5,000）



トレンチ配置図（1/400）

II　埋蔵文化財センター移転事業

現在、埋蔵文化財センター（市役所別館）・文化課（市役所本庁舎）・遺物収蔵庫（市役所別館・廃校校舎）と分散している施設を一元化し、事務の軽減・出土遺物の集中管理を目的として、平成12年度より日田市南友田町に所在する日本道路公団日田工事事務所跡地への移転を進めてきた。今年度は公団事務所の改装工事終了後、埋蔵文化財センターの整理作業室ならびに全ての収蔵遺物の移転が完了し、平成13年11月より新施設での整理作業が開始された。

埋蔵文化財センター

整理作業風景

Ⅲ　平成１３年度の埋蔵文化財普及･啓発事業

１）大肥条里吉竹地区体験発掘

大肥条里吉竹地区の発掘調査中（詳細Ｐ６）の平成13年4月25･26日に地元の静修小学校の４～６年生117名を対象として発掘体験を行った。これは、小学生に地元の歴史や文化財に触れてもらおうと行ったものである。まず、担当者が大明地区の歴史を日本の歴史や日田の歴史、遺跡の話を交えながら説明を行った。その後、遺跡内の遺構の見学や出土した遺物を実際に手に触れたのち、大流路部分を担当者や作業員の指導の下、発掘の体験を行った。

体験発掘風景

２）穴観音古墳現地説明会

穴観音古墳の調査成果（詳細 P22）の内容と意義について広く市民一般に公開する目的で、平成14年３月24日（日）に現地説明会を市教育委員会の主催で開催した。午前と午後の2回に分けて行い、合わせて101名の参加があった。説明会ではまず担当者が調査の成果や意義を説明したのち、古墳周囲に設定、掘り下げを行ったトレンチに入り、周溝や版築の見学を行った。また、装飾の退色や石材の劣化による危険性などから一般公開を中止していた横穴式石室の公開も特別に行った。見学者は数人ずつのグループに分かれて、石室内に入り市教育委員会の担当者の説明を受けた。

現地説明会風景１

現地説明会風景２

３）平成１３年度の刊行物一覧

	書名	巻次	体裁	総ページ	内　容
1	平成 12 年度 (2000 年度) 日田市埋蔵文化財年報	-	A 4	48	平成 12 年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財調査事業、埋蔵文化財保護事業、埋蔵文化財普及および啓発事業などを所収。
2	内ノ下遺跡	33	A 4	45	広域農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、古墳時代～古代の竪穴住居跡、掘立柱建物などを所収。
	大行事遺跡				広域農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、縄文時代の遺物 、弥生時代の竪穴住居跡、中世の溝・土坑などを所収。
3	日田条里上手地区Ⅲ	34	A 4	94	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、古代の掘立柱建物跡・土坑、中世の掘立柱建物を所収。
	高瀬条里永平寺地区				宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報の成果、縄文時代、弥生時代～古墳時代の竪穴住居跡、中世の溝・掘立柱建物・土坑などを所収。
	尾部田遺跡				宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、縄文時代、弥生時代～古墳時代の竪穴住居跡、古代の溝・竪穴住居跡・掘立柱建物・土坑を所収。
4	後迫遺跡	35	A 4	139	農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、弥生時代の竪穴住居跡・甕棺墓・土坑・溝、古墳時代の石棺墓、古代の掘立柱建物・竪穴、中世の溝などを所収。
5	高瀬条里深野田地区	36	A 4	17	市道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、縄文時代の土坑、古墳時代の竪穴遺構を所収。
6	今泉遺跡	37	A 4	23	市道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、弥生時代～古代の竪穴住居跡、溝を所収。

Ⅳ　平成１３年度埋蔵文化財センター受領図書一覧

書　　名	寄贈者	刊行年
東京都		
豊後国・肥前国風土記 ビデオ「風土記～古代への扉～」	紀伊國屋書店映像情報部	2001
発掘された日本列島９５－９９	文化庁	1999
長野県		
南宮遺跡Ⅱ（第一分冊・第二分冊）	〃	1999 ～ 2000
南宮遺跡Ⅱ（第三分冊）	〃	2002
長野吉田高校グランド遺跡Ⅱ	〃	2001
川田氏館跡　岩崎遺跡	〃	2001
徳間榎田遺跡	〃	2001
長野市埋蔵文化財センター所報 №.12	〃	2001
静岡県		
三島市文化財年報第 12 号	三島市教育委員会	2000
多呂ノ前遺跡	〃	2001
史跡 山中城跡	〃	2001
箱根旧街道石畳 整備事業の概要	〃	2001
三島市文化財年報第 13 号	〃	2001
三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ	〃	2002
押切遺跡	〃	2002
初音ヶ原Ｂ遺跡 第４地点	〃	2002
史跡 山中城跡	〃	2002
十二所居館	浅羽町教育委員会	2001
浅羽町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ	〃	2002
大阪府		
高槻市文化財年報 平成 11・12 年度	高槻市教育委員会	2001 ～ 2002
高槻城キリシタン墓地	〃	2001
嶋上遺跡群２５・２６	〃	2001 ～ 2002
勝福寺古墳測量調査報告書	大阪大学大学院文学研究科考古学研究室	2001
史跡・今城塚古墳	高槻市教育委員会	2001
待兼山遺跡Ⅲ	大阪大学埋蔵文化財調査委員会	2001
池島・福万寺遺跡ってなあに？	(財) 大阪府文化財調査研究センター	2000
弥生時代前期の区画墓	〃	1997
発掘速報展大阪　大河内展	〃	2002
発掘速報展大阪２００１	大阪府立近つ飛鳥博物館（財）大阪府文化財調査研究センター	2001
大仙西町遺跡（ＤＳＷ－２）堺環濠都市遺跡（ＳＫＴ７３５）	堺市教育委員会	2001
丈六大池遺跡（ＪＲＯ－５）	〃	
堺環濠都市遺跡（ＳＫＴ１７７） 堺環濠都市遺跡（ＳＫＴ７５０）	〃	2001
堺環濠都市（SKT762）堺環濠都市遺跡（ＳＫＴ７０１）長曽根遺跡・Ⅶ	〃	2001
堺環濠年遺跡（SKT769）堺環濠都市遺跡（SKT764）大野寺跡（OOT-10）	〃	2001
堺環濠都市遺跡（ＳＫＴ７５４）		
堺環濠都市遺跡	〃	2000
陶邑窯跡群	〃	2001
堺埋蔵文化財だより 堺市立埋蔵文化財センター報第１４号	堺市立埋蔵文化財センター	2001
平成１２年度国庫補助事業発掘調査報告書	〃	2001
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成 12 年度	泉佐野市教育委員会	2001
若宮・上町東遺跡	〃	2001
兵庫県		
南所３号墳試掘報告	大手前大学考古学研究会	2001
奈良県		
文化財学報 第１９集	奈良大学文学部文化財学科	2001
埋蔵文化財ニュース 105 号～ 108 号	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター	2001 ～ 2002
和歌山県		
発掘物語２００１ 平成１３年春季特別陳列	(財) 和歌山市文化体育振興事業団	2001
史跡和歌山城	(財) 和歌山市文化体育振興事業団	2000
米町遺跡２ 第２地点の調査	〃	2001
長野小西田遺跡２	〃	2001
長野角屋敷遺跡２	〃	2001
木屋瀬宿本陣跡・脇本陣跡３	〃	2001
金丸遺跡３	〃	2000
野口遺跡群	那珂川町教育委員会	2001
安徳原田遺跡群	〃	2001
鳴神Ⅵ遺跡	〃	2001
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報６	〃	2000
島根県		
茂芳目遺跡 布志名遺跡 大堤Ⅱ遺跡 大堤Ⅰ遺跡 樅ノ木古墳群　真野谷遺跡　杉谷遺跡　室山遺跡	日本道路公団中国支社 島根県教育委員会	2001
ガラスのささやき 古代出雲のガラスを中心に	島根県立八雲立つ風土記の丘	2001
松江市手間古墳発掘調査報告	島根大学法文学部考古学研究室	2002
岡山県		
史跡保存整備事業	岡山市教育委員会	2001
岡山市埋蔵文化財調査の概要 1999（平成 11）年度	〃	2001
三手向原遺跡 足守藩武家屋敷跡	〃	2001
山口県		
大崎遺跡	財団法人山口県教育財団　山口県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	2002
陶ケン第１４号	〃	
あやらぎＮｏ,5	下関市考古博物館	2001
研究紀要 第５号	〃	2001
下関市立考古博物館年報６平成 12 年度	〃	2001
弥生時代・日本海地域の交流	〃	2001
徳島県		
徳島市埋蔵文化財発掘調査概要１０	徳島市教育委員会	2000
阿波国府跡発掘調査報告書 2000.3、2001.3	〃	2000 ～ 2001
徳島市文化財だより 平成 12,13 年度	〃	2000 ～ 2001
徳島市埋蔵文化財発掘調査概要１１	〃	2001
塩飽諸島	徳島文理大学文学部文化財学科	2001
愛媛県		
大渕遺跡１・２次調査	財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	2000
播磨塚天神山古墳	〃	2001
福音寺地区の遺跡Ⅲ　筋違Ｌ・Ｎ遺跡	〃	2001
福岡県		
徳永川ノ上遺跡Ｆ地区	豊津町教育委員会	2001
上穂波地区遺跡群４	筑穂町教育委員会	2001
福岡県大学総合研究所報第 240 集	福岡大学総合研究所	2000
福岡県岐志元村遺跡	〃	2000
佐賀県大友遺跡	〃	2001
垣生羅漢山遺跡群	中間市教育委員会	2001
筑後国府跡 第 168 次調査	久留米市教育委員会	2000
格屋敷遺跡	〃	2000
大谷古墳群 第１・２次調査	〃	2000
久留米市埋蔵文化財調査集報Ⅲ	〃	2000
筑後国府跡 第 170 次調査	〃	2000
久留米市城下町遺跡 第十四次調査	〃	2001
筑後国府跡 第 169 次調査	〃	2001
旗原遺跡 第２次調査	〃	2001
筑後国府跡 第１７３次調査報告	〃	2001
横道遺跡Ⅱ	〃	2001
金丸遺跡Ⅱ 第３次調査	〃	2001
久留米市内遺跡群 平成 12 年度	〃	2001
木屋瀬宿本陣跡・脇本陣跡１	(財) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	2000
御座遺跡第 16 地点	〃	2000
貫・井手ケ本遺跡３	〃	2001
小倉城御普所跡	〃	2001

書　　名	寄贈者	刊行年
下石田遺跡	(財) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	2000
長野フンデ遺跡２ ４区の調査	〃	2001
松木遺跡Ⅳ	〃	2001
手野古墳群	岡垣町教育委員会	1999
南ノ前古墳群	〃	2000
墓ノ尾遺跡第２地点・山下遺跡	〃	2000
長尾古墳群	〃	2001
糠塚遺跡群	〃	2001
上北島塚ノ本遺跡	筑後市教育委員会	2001
筑後北部第二地区遺跡群Ⅱ	〃	2001
筑後市内遺跡群Ⅱ	〃	2001
筑後西部第２地区遺跡群（Ⅳ）	〃	2001
筑後東部地区遺跡群Ⅴ	〃	2001
筑後東部地区遺跡群Ⅵ	〃	2001
前原市内文化財整備基本計画	前原市教育委員会	1998
ＪＲ筑肥線複線化用地内遺跡群	〃	2000
前原西町遺跡	〃	2000
有田塞ノ本遺跡	〃	2000
神在横畠遺跡	〃	2000
飯原門口遺跡	〃	2001
荻浦天神神社裏古墳	〃	2001
蔵持堺遺跡	〃	2001
高田小生水遺跡	〃	2001
高祖遺跡群Ⅲ	〃	2001
三坂七尾遺跡	〃	2001
福岡県埋蔵文化財発掘調査年報 平成１１年度	福岡県教育委員会	2001
仁右衛門畑遺跡Ⅱ	〃	2001
船越高原Ａ遺跡Ⅱ	〃	2001
西新町遺跡Ⅲ	〃	2001
内ケ磯窯跡１	〃	2001
上唐原了清遺跡Ⅲ	〃	2001
福岡県埋蔵文化財発掘調査年報 平成１０年度	〃	2001
原田・鎌田原遺跡	嘉穂町教育委員会	1997
玄海灘における海底遺跡の探査と確認調査	九州大学大学院考古学研究室	2001
小深町遺跡 福岡県大川市所在遺跡の調査	大川市教育委員会	2001
芦屋町山鹿地区芦屋層群漸新世化群調査報告	芦屋町教育委員会	2000
芦屋町歴史民俗資料館年報第２号 平成１２年度	〃	2001
豊前の民俗芸能	豊前市無形民俗文化財保存協議会	2001
平成十三年度特別展	行橋市教育委員会	1999 ～ 2001
春日市埋蔵文化財年報６・７・８	春日市教育委員会	1999
上平田遺跡	〃	1999
大土居水城跡	〃	2000
野藤遺跡	〃	2000
大土居水城跡	〃	2001
須玖盤石遺跡	〃	2001
大荒遺跡・天田遺跡	〃	2001
大坪遺跡	〃	2001
古代の器 平成１３年度考古企画展	春日市奴国の丘歴史資料館	2001
大野城市の文化財 第３３集	大野城市教育委員会	2001
瑞穂・原ノ畑遺跡	〃	2001
先ノ野遺跡・慶ノ浦遺跡	遠賀町教育委員会	2001
冨地原岩野Ａ	宗像市教育委員会	2001
三郎丸堂ノ上Ｃ	〃	2001
東郷登リ立	〃	2002
むなかたの文化財	〃	2000
小田小塚本遺跡	甘木市教育委員会	2001
甘木小池遺跡	〃	2001
平塚川添遺跡Ⅰ	〃	2001
平塚川添遺跡	〃	2002
福岡市埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ年報第 20 号	福岡市教育委員会	2001
太宰府条坊跡ＸⅦ	太宰府市教育委員会	2001
宝満山遺跡群Ⅲ	〃	2001
佐野地区遺跡群ＸⅠ	〃	2001
三条遺跡	〃	2001 ～ 2002

書　　名	寄贈者	刊行年
太宰府条坊跡ＸⅥ	太宰府市教育委員会	2001
原遺跡Ⅰ	〃	2000
寺福堂遺跡２	小郡市教育委員会	2001
干潟狼山遺跡	〃	2001
横隈仕解田遺跡	〃	2001
三沢蓬ヶ浦遺跡２	〃	2001
横隈十三塚遺跡２	〃	2001
干潟遺跡６	〃	2001
横隈上内畑遺跡３	〃	2001
力武内畑遺跡４	〃	2001
三沢蓬ヶ浦遺跡４	〃	2001
三沢寺小路遺跡２	〃	2001
小郡若山遺跡６	〃	2001
大保西小路遺跡２	〃	2001
太宰府条坊跡ＸⅧ	太宰府市教育委員会・玉川文化財研究所	2001
太宰府・佐野地区遺跡群ＸⅡ	〃	2001
田主丸大塚古墳	田主丸町教育委員会	2001
国指定史跡 寺徳古墳 墳丘範囲確認調査	〃	2001
西館古墳	〃	1996
耳納北麓の装飾古墳	〃	
佐賀県		
不動山窯跡群・吉田１号窯跡	嬉野町教育委員会	1998
嬉野町の古陶窯跡	〃	1998
武雄市内遺跡発掘調査報告書（平成３年度～１１年度）	佐賀県武雄市教育委員会	2001
菅牟田荒谷遺跡	唐津市教育委員会	2001
東山Ⅰ遺跡	〃	2001
外原遺跡	〃	2001
衣干古墳群	〃	2001
半田新田遺跡	〃	2001
千々賀遺跡	〃	2001
唐津市内遺跡確認調査（１７）	唐津市教育委員会	2001
高志神社遺跡	千代田町教育委員会	2000
姉遺跡（Ⅷ区の調査）	〃	2000
志田東山２号窯跡調査概報	佐賀県塩田町教育委員会	2001
京町遺跡	鳥栖市教育委員会	1997
今泉遺跡	〃	1997
西田遺跡	〃	1998
勝尾城下町遺跡	〃	1999
安永田遺跡	〃	2001
長ノ原遺跡・神山古墳	〃	2001
加藤田遺跡	〃	2001
長ノ原遺跡	〃	2001
永田古墳群	〃	2001
安永田遺跡	〃	2001
塩田の古唐津 塩田のやきもの４	塩田町歴史民俗資料館	1999
近世の陶磁器 発掘調査速報展 塩田のやきもの５	〃	2001
野中遺跡（1 区・2 区）	佐賀市教育委員会	2001
石土井遺跡Ⅰ－１区の調査－	〃	2001
増田遺跡群Ⅴ －７区の調査－	〃	2001
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書　1997・1998 度	〃	2001
上岸川遺跡	〃	2001
徳永遺跡１０区 徳永遺跡群Ⅳ	〃	2001
徳永遺跡１２区 徳永遺跡群Ⅴ	〃	2001
上揚遺跡２区 上和泉遺跡群Ⅱ	〃	2001
社遺跡	佐賀県小城郡三日月町教育委員会	1999
仁俣遺跡	〃	1999
国営吉野ヶ里歴史公園	国土交通省九州地方整備局国営吉野ヶ里歴史公園工事事務所	2001
長崎県		
矢立山古墳群発掘調査概報（1）	厳原町教育委員会	2001
熊本県		
考古学研究室報告第３６集	熊本大学文学部考古学研究室	2001
熊本大学埋蔵文化財調査室年報７　2000 年度	熊本大学埋蔵文化財調査室	2001
四反田遺跡	熊本県玉名郡南関町教育委員会	2001
池辺寺跡Ⅲ	熊本市教育委員会	2001

書　　名	寄贈者	刊行年
神水遺跡Ⅳ	熊本市教育委員会	2001
熊本市埋蔵文化財調査年報第４号 平成１１年度	〃	2001
熊本市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 11、12 度	〃	2001
特別史跡 熊本城跡 西出丸（奉行所跡）	〃	1999
二の丸御門跡 南大手門跡 南坂　岩瀬・木柑子遺跡	〃	2001
坂口遺跡･石清水遺跡	〃	2001
扇ノ坂Ａ遺跡･堂迫平遺跡	〃	2001
考古学研究室報告第３７集	熊本大学文学部考古学研究室	2002
大分県		
大悟法条里跡池ノ下地区 福島遺跡人垣地区 長者屋敷遺跡	中津市教育委員会	2001
長者屋敷遺跡	〃	2001
下ノ山遺跡	大分県教育委員会	2001
清太朗遺跡	〃	2001
大波羅遺跡	〃	2001
冨貴寺遺跡（東地区）	〃	2001
虫喰谷遺跡	〃	2001
畑田遺跡	〃	2001
安国寺遺跡	〃	2001
大園遺跡	〃	2001
毛井遺跡Ａ地区	〃	2001
二目川遺跡	〃	2001
上野遺跡群大分上野丘高校地区	〃	2001
行者原狐塚古墳	〃	2001
四山社製糸工場跡・旧古町橋跡・吉田家屋敷跡	〃	2001
武藤家屋敷跡・上家屋敷跡・由学館跡・浮殿遺跡	〃	2001
都野原田遺跡Ⅴ	〃	2001
尾道遺跡	〃	2001
城前遺跡	〃	2001
後迫遺跡	〃	2001
日田市高瀬遺跡群の調査３ 上野第１遺跡	〃	2001
大分県埋蔵文化財年報９ 平成１１（１９９９）年度版	〃	2001
豊後への道	〃	2001
大分県シン垣	大分県教育委員会	2001
釣遺跡・春田遺跡Ａ・Ｂ地区	大分県九重町教育委員会	2000
回顧 二日市洞穴２５ｔｈ 開館記念特別展	〃	2000
史跡安国寺集落遺跡整備事業報告書	国東町教育委員会	2001
原遺跡（餅田３・４地区）原遺跡（原ノ下１・２地区）	〃	2001
原遺跡（亀井１地区）原遺跡（平原１地区）原遺跡（七郎丸１地区）	〃	2001
国史跡 安国寺集落遺跡	〃	2001
国東町の堂宇 富来地区	〃	2001
史跡安国寺集落遺跡整備事業報告書概要版	〃	2001
五郎丸近世墓地群	千歳村教育委員会	2000
鹿道原遺跡 発掘調査報告書	〃	2001
萩山遺跡群	佐伯市教育委員会	2001
三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅴ	三重町教育委員会	2001
宇佐地区遺跡群発掘調査概報Ⅷ	宇佐市教育委員会	2001
上野 柳ヶ谷 島巡り 相原政所 桜山 大内ヶ迫 宮ノ谷 麦田ノ上遺跡	豊後高田市教育委員会	2000
高宇田条里遺跡 高宇田条里遺跡貝元地区	〃	2000
豊後高田地区遺跡群発掘調査概報ＸⅥ	〃	2000
豊後高田地区遺跡群発掘調査概報ＸⅦ	〃	2001
荒田遺跡	臼杵市教育委員会	2001
国宝臼杵磨崖仏保存修理工事報告書	〃	1997
田篠台遺跡Ⅱ	〃	1994
下中野遺跡	〃	1996
臼杵石仏群地域遺跡	〃	1999
史跡岡城跡ＸⅤ	竹田市教育委員会	2000
史跡岡城跡ＸⅥ	〃	2000
竹田地区遺跡群･ 城下町遺跡群Ⅲ	〃	2000
竹田地区遺跡群	〃	2001
菅生台地と周辺の遺跡ＸⅥ 西園南遺跡	〃	2000

書　　名	寄贈者	刊行年
難波屋敷	竹田市教育委員会	2001
平井Ｂ遺跡	〃	2000
下石家屋敷跡 下石家東足軽屋敷跡	〃	2000
市道岡城線埋蔵文化財発掘調査報告書	〃	2001
片ヶ瀬遺跡	〃	2001
中川午之助屋敷群 久戸谷近世墓地群	〃	2000
三光村の遺跡	三光村教育委員会	2001
塚田の遺跡	天瀬町教育委員会	2001
塩屋条里遺跡 安岐町文化財調査報告書第９集	安岐町教育委員会	2001
宮崎県		
三股町内遺跡Ⅰ	三股町教育委員会	2001
内小野遺跡	宮崎県えびの市教育委員会	2000
天神免遺跡	〃	2000
島内地下式横穴墓群	〃	2001
昌明寺遺跡	〃	2001
東川北地区遺跡群	〃	2001
長江浦地区遺跡群	〃	2002
東川北地区遺跡群	〃	2002
小岡丸地区遺跡群	〃	2002
後平第２遺跡	〃	2002
的野遺跡	宮崎県高岡町教育委員会	2001
三生江遺跡	〃	2001
中原遺跡	〃	2001
日南市内遺跡発掘調査概報 平成１２年度	宮崎県日南市教育委員会	2001
楠原坂ノ下遺跡	〃	2001
内宮田遺跡 柳迫遺跡 中別府遺跡	宮崎県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	2001
木城村古墳２７号・６０号横穴墓	〃	2000
梅ヶ島遺跡 大辻屋敷遺跡	〃	2001
権現原第２遺跡 杉木原遺跡 永ノ原遺跡	〃	2001
木城原遺跡	〃	2001
井尻遺跡 雀田遺跡 沖ノ田遺跡	〃	2001
元地原遺跡	〃	2001
大岩田上村遺跡	〃	2001
町屋敷遺跡	〃	2001
上ノ迫遺跡	〃	2001
虎崩・榎木田遺跡 黒勢戸・上示野原遺跡	〃	2001
梅北佐土原遺跡 中尾遺跡 蓑原遺跡	〃	2001
木脇遺跡	〃	2001
松元遺跡 井出口遺跡 塚原遺跡	〃	2001
王子原遺跡	〃	2001
志戸平遺跡（３次）頭田遺跡	〃	2001
権現原第１遺跡 下星野遺跡	〃	2001
倉岡第２遺跡	〃	2001
東九州自動車道（都野～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅰ 石葛ヶ迫遺跡	〃	2001
南学原第１遺跡・南学原第２遺跡	〃	2002
内城跡	〃	2002
白ケ野第２・第３遺跡	〃	2002
蔵座村遺跡	〃	2002
柿迫遺跡・龍泉寺遺跡	〃	2002
下屋敷遺跡	〃	2002
上ノ原遺跡	〃	2002
迫内遺跡	〃	2002
本城跡	〃	2002
白ケ野第２・第３遺跡 上の原第１遺跡	〃	2002
母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡	〃	2002
東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅱ 平成１３年度	〃	2002
池内横穴墓群発掘調査整理報告書	宮崎県教育委員会・池内横穴墓群調査整理委員会	1997
西都原遺跡 日向国分寺跡	宮崎県西都市教育委員会	2001
平成 12 年度 西都原古墳研究所・年報第 17 号	〃	2001
史跡 生目古墳群	宮崎市教育委員会	2001
深田遺跡	〃	2001
間越遺跡	〃	2001
黒草第２遺跡	宮崎県宮崎郡田野町教育委員会	2001

書　　名	寄贈者	刊行年	書　　名	寄贈者	刊行年
元野河内遺跡	宮崎県宮崎郡田野町教育委員会	2001			
ズクノ山第１遺跡	〃	2001			
ズクノ山第２遺跡Ｆ地区	〃	2002			
横市地区遺跡群 馬渡遺跡（第２次調査）・坂元Ａ遺跡	宮崎県都城市教育委員会	2001			
町内遺跡発掘調査報告書	宮崎県北諸県郡高城町教育委員会	2000			
山城第１遺跡	〃	2001			
高城町の文化財	〃	2001			
三股町内遺跡Ⅱ	宮崎県三股町教育委員会	2002			
縄文集落 本野原遺跡	〃	2002			
北郷町内遺跡発掘調査概要報告書 １９９９・２０００年度	宮崎県北郷町教育委員会	2001			
田中遺跡	〃	2001			
鹿児島県					
国史跡 隼人塚 山跡遺跡発掘調査概報	隼人町教育委員会	1998			
上野原遺跡（第 10 地点）第４分冊～第１０分冊	鹿児島県立埋蔵文化財センター	2001			
竹ノ山Ａ・Ｂ遺跡	〃	2001			
枦堀遺跡（日置郡松元町）西ノ原Ｂ遺跡（日置郡松元町）	〃	2001			
一ノ谷遺跡（日置郡伊集院町）	〃	2001			
大龍遺跡・大龍遺跡Ｂ地点	鹿児島市教育委員会	2001			
個人					
東アジアの囲壁・環濠集落	小沢 佳憲	2001			
歴史					
東京都					
港郷土資料館館報１８ 平成 11 年度版	港区郷土資料館	2001			
資料館だより第４３号～４７号	〃	2000 ～ 2001			
研究紀要６ 平成 13 年	〃	2001			
港郷土資料館館報１９ 平成 12 年度版	〃	2001			
色と人をめぐる文化誌	〃	2001			
どんなふうに、見えるかな？	〃	2001			
民族資料目録第１集大工道具Ⅰ	〃	2001			
仏教文化講座　浅草寺　平成 12 年度	浅草寺	2001			
長野県					
上田の荘園と武士	上田市教育委員会 市誌編さん室	2001			
室町・戦国時代の争乱	〃	2001			
愛知県					
みんなの豊橋 21 世紀に伝えたい豊橋の姿	豊橋市文化課	2001			
兵庫県					
瓦ー近代の酒蔵所用	大手前大学考古学研究室	2001			
福岡県					
歴史散歩 №1	久留米市教育委員会				
歴史散歩 №１３・№１４	〃				
遠賀川その恵みと歴史展	水巻町歴史資料館	2001			
小石原村誌	小石原村	2001			
熊本県					
懐しの風景展 展示図録	山鹿市立博物館	2000			
ふるさとに汽車が走ったころ					
弥生人のくらしと祭り展	〃	1998			
大分県					
窪田治部衛門様御觸書留	日田市教育委員会	2001			
九重町歴史資料館年報	大分県九重町教育委員会	2001			
大分県立歴史博物館年報 平成 12 年度	大分県立歴史博物館	2001			
おおいた歴博№１０	〃	2001			
第１９回特別展 豊後国の眺め	大分市歴史資料館	2000			
第２０回特別展 江戸紀行	〃	2000			
大分市歴史資料館年報（平成１１年度･１２年度）	〃	2000			
大分市歴史資料館ニュース №49 ～№51	〃	2000			
大分市歴史資料館ニュース №53 ～№55	〃	2001			
その他					
東京都					
「日本のわざと美」展	文化庁文化財部伝統文化課	2001			
第 36 回重要無形文化財を保持する人々 人間国宝新作展	毎日新聞社	2001			
福岡県					
西日本文化第３７５号	(財) 西日本文化協会	2001			

平成 13 年度（2001 年度）

日　田　市　埋　蔵　文　化　財　年　報

発行日　平成 14 年 12 月 27 日
編　集　日田市教育委員会
発　行　〒 877-8601
大分県日田市田島２－６－１
日田市教育委員会
印　刷　三光堂印刷所